

Origami Tanteidan Newsletter

折紙探偵団新聞

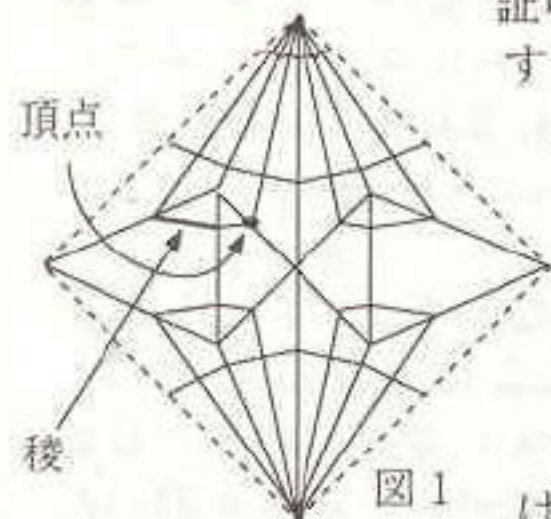
45号



✂ 平らたくたたんだ折り紙(=平坦折り紙)をひろげたもの(=展開図)は、理想的な状態、つまり紙に厚さが無いと、多角形による平面の分割になる。数学ではこれを胞体分割、折り線を稜、折り線が集まる点を頂点という。

平坦折り紙の基本定理 平坦折り紙の展開図において、紙の縁にある頂点を除き、以下が成り立つ。

- (1) 各頂点に集まる稜の数は4以上の偶数、
- (2) 各頂点に集まる山折り線数と谷折り線数の差は2、
- (3) 各頂点に集まる稜のなす角の大きさのひとつおきの和は180度。



証明はそのうちすることにする。折り鶴の展開図1で確認されたい。なお(3)で折り線数が4の場合には伏見の定理と呼ばれている。

✂ (2)を違った視点から見よう。読者の方々、今からあなた方は蟻になってねじり折りの展開図2の上を散歩する。散歩コースは3つあり、A、B、Cはそれぞれ、頂点Pを1周、2頂点P、Q周遊、4頂点P、Q、R、S周遊である。蟻はほのかに山谷のついた展開図上を歩きながら、山折り線と谷折り線の数を数えていく。結果はコース順に、(山線数, 谷線数)=(3,1),(4,2),(4,4)となり、最後だけ様子が違っている。

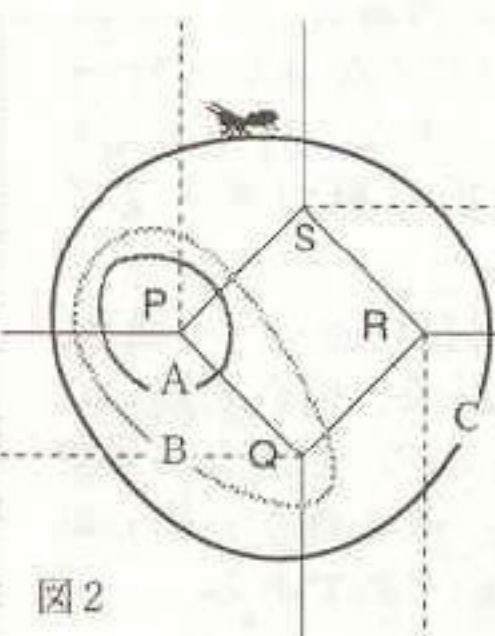


図2

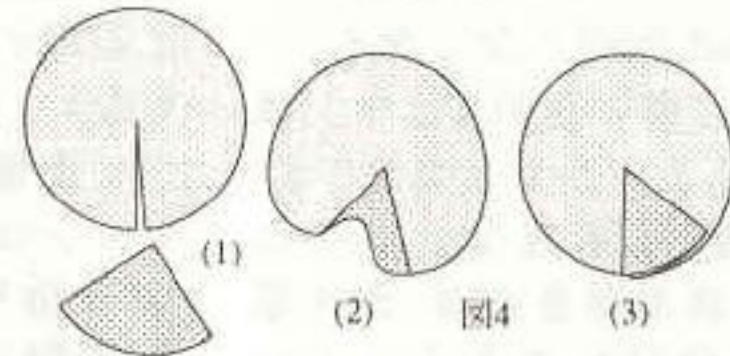
実は基本定理(2)はAコースについて記述したもので、拡張すると、

(4) 閉曲線を横切る折り線の山谷数の差は0または2である。ただし閉曲線は頂点を通ったり、接するように折り線をかすめて戻ってはならない。

これまた証明しないので、蟻になって確認されたい。(4)はフランスのJacques Justin (ジャック・ジュスタン)氏による結果である。

✂ 曲面上の点に対して、曲率という概念がある。

曲面に1点を印す。この点を中心にコンパスで単位円(=中心点からの距離が1であるような点の集まり)を描く。球面や平面だと円は自然に



出す。これを切り込みの間に継ぎ足すと、たるみのある円板(?)ができる。これが負曲率曲面のモデルである(図4(2))。これを自然に折りたたむと、継ぎ足し部分の真ん中と継ぎ目の1つに山折り線と谷折り線が1本ずつ

く、新しい現象である。折り線が2本しかないからである。基本定理(1)によると折り線は最低4本だったはずである。そこで、

東の定理 曲面の平坦折りにおいて、以下が成り立つ。

- (5) 各頂点に集まる山折り線数と谷折り線数の差は、曲率が0または正の場合には2、負の場合には0、
- (6) 各頂点に集まる折り線のなす角の大きさの一つ置きをS、Tとみると、 $S - T$ は360度の整数倍である。特に曲率が0または正の場合には0度となる。

普通の平面の平坦折りでは、 $S + T = 360$ 度である。これを(6)の $S - T = 0$ 度と組み合わせ

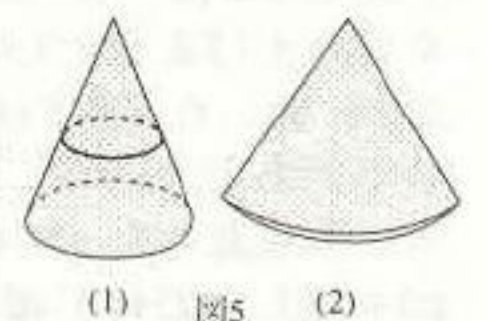


図5 (1) (2)

ると基本定理(3)が得られる。つまり東の定理は基本定理(3)の拡張になっている。

円錐面(図5)ではどうであろう。円錐の先端中心の単位円の周は 2π より短いので正曲率である。これを折りたたむと平たい2枚重ねの扇形になり、山折り線

が2本できる。(5)が成立している。(6)のSとTは共に扇形の中心角の大きさだから $S - T = 0$ となり(6)も成立する。

✂ 予期していたことだが、話が途中になった。続きは次回。タイトルは『負曲率と折り紙』



第3回

東流折り紙の幾何学から

描けるが、図3のように波打った面だと円(?)も波打つ。これらの周の長さを計ると、平面、球面、図3の曲面で各々、 2π 、 2π より短、 2π より長、となる。この長短に応じて、曲面の上の点の曲率を0、正、負と定める。

✂ 負曲率曲面のモデルを作ろう。同じ半径の円形の紙を2枚用意する。1つは中心に向かって切り込みを入れ、もう1つから扇形を切り

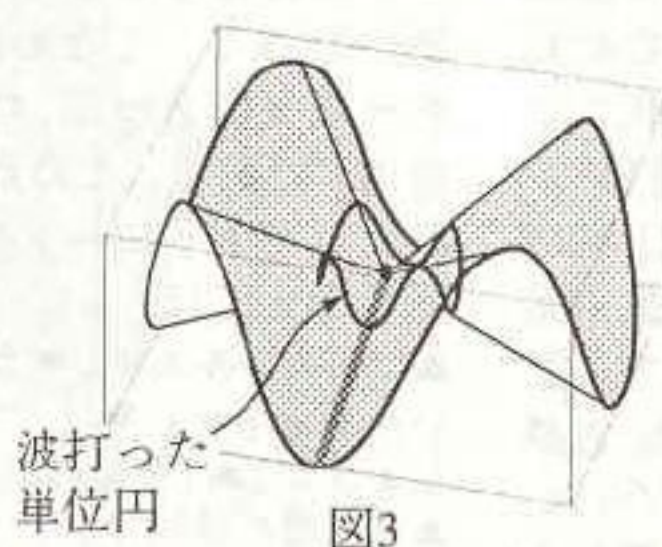


図3



折紙時評

まえかわ じゅん Jun Maekawa

第4回

謎の解明と
よくある話

前川 淳

■8月は忙しい。コンヴェンションもあるし・・・。

この連載、どこが「折紙時評」なんだかわからなくなりつつあるが、前回「謎の数々は次回明らかになる(かもしれない)」と書いたので、今回はその解決編である(かもしれない)。

まずは、「北越孔雀カラー」。これは、北越製紙(新潟県長岡市)が生産している紙の商品名である。トーヨーは紙を裁断し、それをパッケージングしているが、紙は製造していない。折り紙をネタに文章を書いているが、新作を発表していない筆者のようなもの(?)である。

北越地方は古くから紙の産地として知られている。越(こし)の国という名は「古紙」からきたものである。(嘘だけれど)

次に、折り紙用紙付属の図になぜ「牛」が登場するのかについて。

賢明なる読者には既に察しがついていることだろう。実は、賢明でないわたしも気がついていたので、話を盛り上げようとして、前回は「謎の牛」と書いた。答えは簡単で、今年が丑年であるということだ。山口氏本人にも確認した。もっとも、山口氏は図を渡ただけで編集には触れていないとのことだ。

さて、わたしとしては、干支の動物を一年にわたって流通させることについては疑問を呈したい。現代ニッポンでは、干支は「年賀状の図案」である。「今年は丑年だ。そうだ。和牛商法を取り締まろう」などと東京地検が方針を決めている・・・ってことはないだろう。「今年は丑年だ。近鉄バファローズが優勝だ」・・・うーん、唇が寒い。シカゴ・ブルズは優勝したが、それは毎年のことだ。

次は、保護者への注意書について。

これに関しては、実際に紙ヒコーキが眼にあたって大怪我になったという話があるらしい。事実を確認できなかったので噂話の域は出ない。

怪我をしたひとはたしかに可哀想だが、道路の段差につまづいて市を訴える海の向こうの国を思い出さなくてもいい。あの国では、コーヒーが熱すぎて火傷したと訴えられたハンバーガーショップもあったやに聞く。手抜き折り図を描いていると、「時間を無駄にした」と訴えられるかもしれない。

最後に「教育折り紙」というネーミングについて。

これは、どうやらトーヨーが始めたもののようだ。もののようだなんて言っていないで確認すればいいじゃないかとの声が聞こえそうだが、そう言われても困る。以下のような事情がある。

以前、ある席で山口さんにトーヨーの社長を紹介された。その際、山口さんはこう言った。

「彼が、悪魔の前川さんです。」

これを聞いたトーヨーの社長はこう答えた。「そうですか。恐いですね。」

いきなり「悪魔の」と言われれば、トーヨーの社長でなくとも

恐いだろう。てなわけで、株式会社トーヨーにとって、わたしは「悪魔の前川」である。この点を含んだ上で、わたしがトーヨーに電話を掛けることを考えてほしい。

▲ブルルルルル。▼ガチャ。▲「前川という者ですが」▼「どちらの前川さんでしょうか」▲「悪魔の前川です」▼「は？」▲「悪魔の前川です」

これでは、進む話も進まない(なんのこっちゃ)

以上、これで、前回の疑問がすっきりと解消した。「すっきりと」とは思えないひとは、細かいことが気になる過ぎるひとである。几帳面さは、折り紙作品をきれいに仕上げる際に

役に立つ美点であるが、それは一面的な真実であるにすぎない。川崎敏和さんを見たまえ。おおざっぱな性格も折り紙の役にたつことがわかる。折り紙が好きなひとにもいろんなひとがいるのである。

そう、折り紙好きにもいろんなひとがいる。ところが、世間ではそうではない。折り紙が趣味だとわかると、まずこう言われる。

「手先が器用なんですねえ」

相手に悪気はない。それどころか褒めているつもりである。が、こう言われた折り紙愛好家の二人に一人はむっとする。むっとはするが、ムキになるのも大人げないな、と考え直す。すると、相手は追い打ちをかけてくる。

「ははは、わたしなんかツルも折れませんから」

別に珍しいことではありません。統計を取ったわけではありませんが、ツルが折れるひとは全人口の3割ぐらいではないでしょうか、などと答える。3割という数字は印象に過ぎないが、あたらずといえども遠からずだ

ろう。まあ、それはいい。奇妙なのは、この「折れません」に、自慢の響きが聞き取れる場合があることだ。なぜか、世の中にはものごとをできないことを自慢するひとがいる。と、思いを巡らしていると、最後の必殺兵器が放たれることがある。

「ツルは折れないですが、紙ヒコーキならできますよ。あなたに認めてもらえば、これは折り紙付きってことですかあ」

でたな。「折り紙付き」。この洒落、折り紙を始めて以来、何百回聞いたことだろう。かくして、空虚なる愛想笑いを残しつつ、その席から折り紙の話題は消えていくのである。



お書き 前回「謎の箱屋敷」で紹介した丹頂鶴の模型の写真。

岡村昌夫

第31回

おかむら まさお Masao Okamura

◆ときには哲学しようかと思う

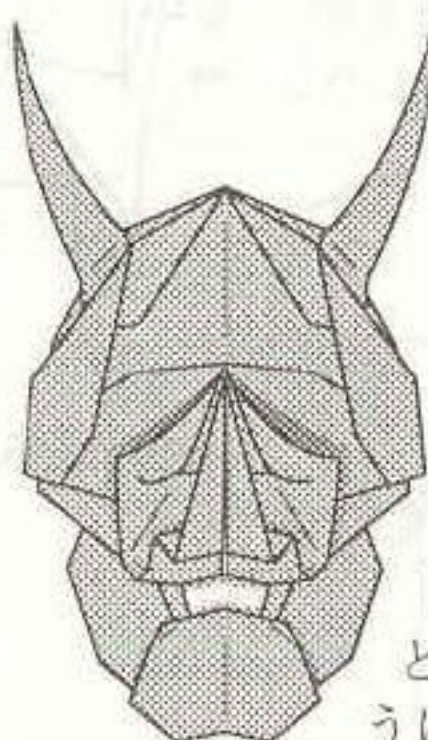


『ザ・マスク』と言う本

布施知子さんの、『ザ・マスク』という、お面の本が近々「おりがみはうす」から出されるそうだ。勿論、折紙のお面である。しかも極めて具象的な古典面の写しを集めたものになるようだ。その一部は『をる』第2号に紹介されて、旧作だが初公開という説明が付いていた。あの写真は衝撃的だった。ユニットの女王とはイメージが繋がらなかったが、これはすごいと思ったものである。目玉の作り方などのユニークさにも目を引かれたが、私が特に関心を持ったのは、それらが伎楽面や能面や狂言面などを見事に写していることだった。その写真には古典面とは全く無関係の題名が付いていたが、一見ただけで作者の古典面に対する並々ならぬ素養が窺われるものであった。そのとき私がそれを特に記憶に留めたのは、あまりにも出鱈目な面が横行している現状を誰も批判しないということに反発していたからだと思う。たとえば「般若」と題された大作を見て、その折紙としての出来の善し悪しを言う前に、この作者は「般若」と「」の違いを知っているのか、という疑問が湧く。「般若」は女性の嫉妬や忿怒を具象化したもので、ある種の悲しみが漂っていなければならない。折紙作者の技量の問題以前に、「般若」を女面として作ることを知らなければいけない。今度の布施さんの「般若」は勿論女である。女の髪の毛をはっきりと折り出した「般若」は初めてだろう。出版が待たれる。

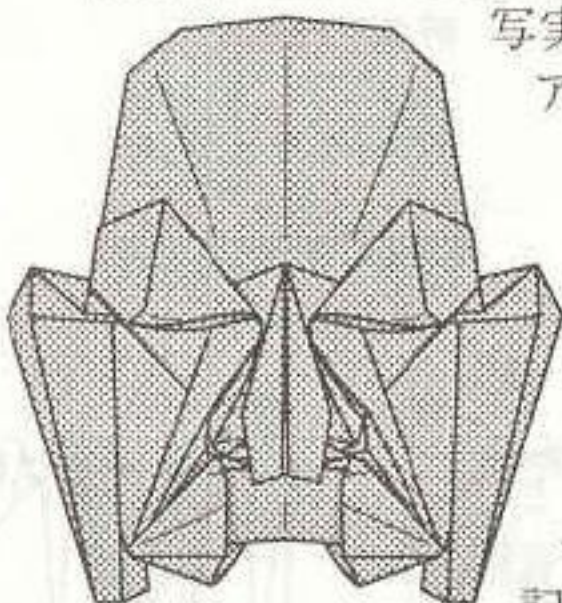
本新聞32号、鈴木邦雄氏の「具象折紙における対象の研究」に「作品の水準を高めるには対象の十分な研究が欠かせません」とあった。その次号で私も同趣旨の記事を書いている。それでもまたまた書く気になったの

は、布施さんのお面の件の他に、先日、映画「ロストワールド」を見たら、吉野君のTレックスそっくりな恐竜の実物？が出て来てびっくりしたこともあった。



勿論、鈴木氏も「具象折紙の場合」と書いて折られるように、あらゆる折紙に該当するわけではない。しかし、例えば折鶴は、具象折紙ではあるが、あのような尾が不自然だからと考えて、もっと写実的な尾を作ろうとすることにどんな意味があるのかとも思う。魯縞庵は足付きの完全鶴を作る工夫に18年を費やしたというが、それは美談なのだろうか。「折り紙にとって対象の十分な研究は必要条件ではないということになります。(これは羽鳥君の口真似)」

「具象」と言っても、「写実」や「非写実」、「くそリアリズム」や「デフォルメ」などいろいろあるので一言では言えないだろう。ただ、上記の布施さんのお面や吉野恐竜は、対象を十分に研究しているから名作であるというわけではない。世の中には良く調べてあることは分かるがつまらない折紙も多い。それは必要条件ではあっても、充分条件ではないということになります。羽鳥君の「折り紙の哲学」で、折紙の名作の条件を書いてくれないだろうか。



「絶対折り紙」

話題は変わるが、前号「折り紙の哲学」で羽鳥君が「見立て」が折紙の必要条件でないことを書いていた。古く礼法折紙では原則的に見立てなしの抽象的な美をねらっているし、フレーベルも、所謂「生活の形式」の分野では具象だが、「美の形式」に属する模様折りは全く見立てをしていない。(わが国に入ってから、その一部は「勲章」とか「菊」とか「額」等に見立てられて定着している。) これらを「絶対折り紙」と名付けることは異論がない。

[絶対折り紙]

ただ、折紙の箱を「箱に見立てられているわけではありません」として「絶対折り紙」に入れていることには、抵抗がある。「見立て」の語の定義の問題だろうか。あるいは「箱」の定義に関わるのか。折紙の箱には、中に物を入れることに耐えられないものもある。「折り紙の箱」を箱の一種と決めてよいだろうか。実用的な折紙の名刺入れがあるが、紙製の名刺入れとは別物である。私はかつて『をる』第7号で、折紙雛は雛ではないということを書いた。衣装を紙で作った雛人形と区別したかったからである。折紙は大抵の物の形を真似して作ってしまうが、それはあくまでも「真似」である。だから、普通、例えば恐竜の図鑑に折紙恐竜は入っていない。横浜の「人形の家」の収蔵品の中に折紙雛は一点も無い。だから折紙雛は雛ではないと書いたのである。

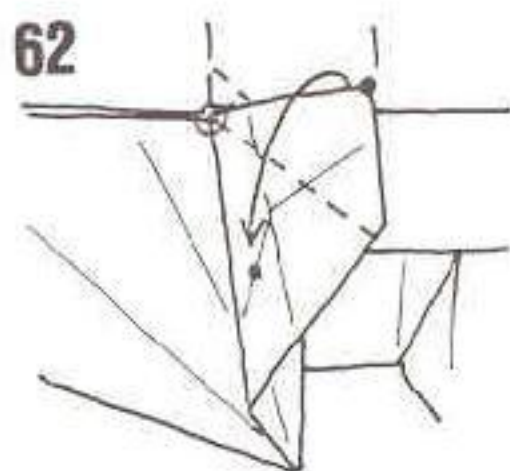
実はそれでよいかどうか私の考えは落ち着いていない。土人形の雛は安価な代用品として装束雛を真似て作られたものである。それなのに普通に雛人形の一種として扱われているのだ。もし、代用品が、その物の一種であるとすれば、「折り紙の箱」は箱の一種である。

3

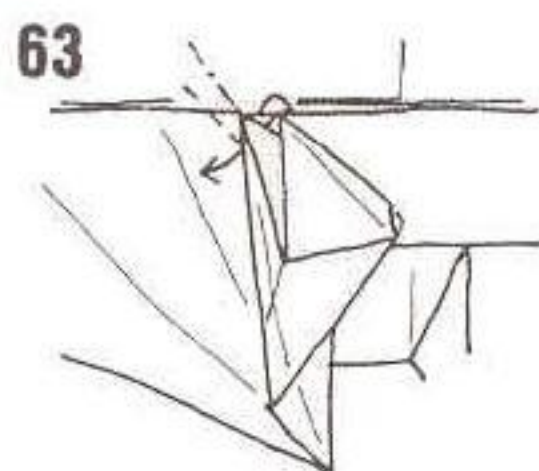
トラ (第 2 回) 作 / 図 小松英夫

前号の訂正:

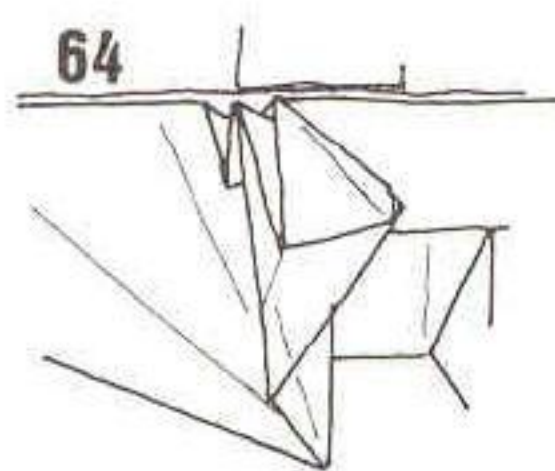
28 の説明として「反対側も同様に折る」を入れてください
おりすじ最後のほう「1 変 30 cm」>「1 辺 30 cm」



印をあわせて
シマをつくる
(折るといより つぶす)

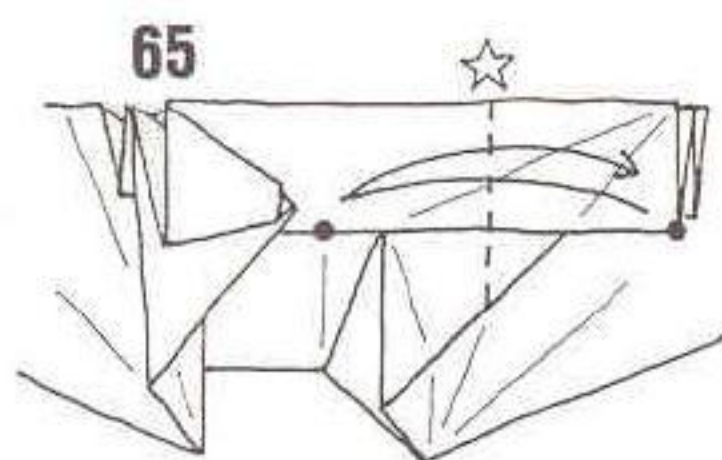


中割り折りで
シマをつくる

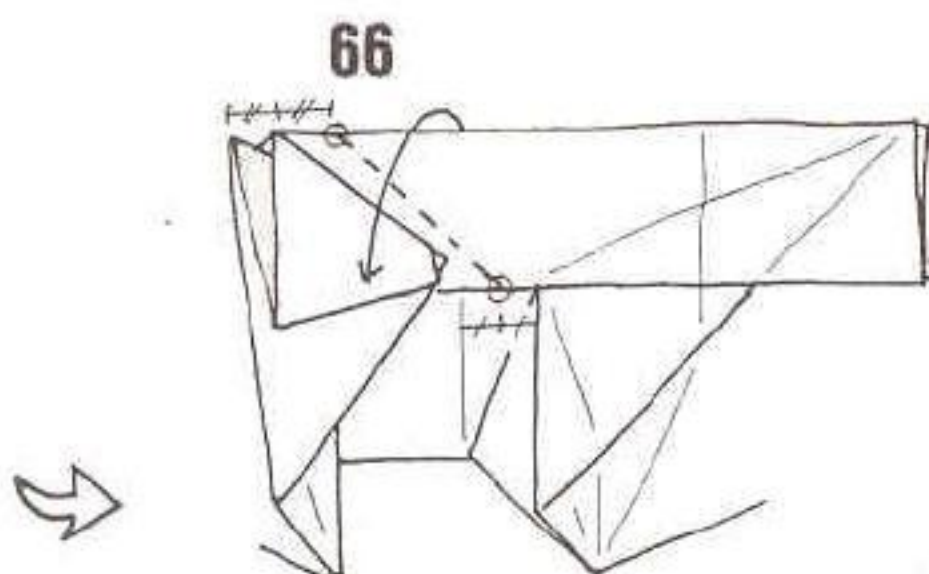


上側も
同様に折る

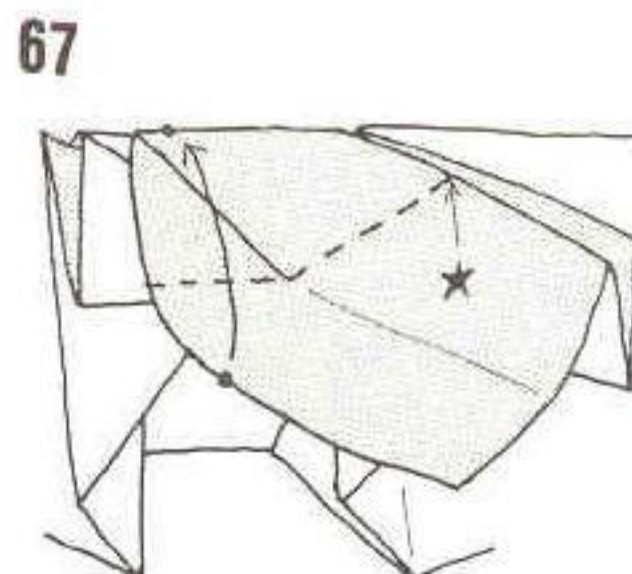
次図から 82 までの
シマの折り出しには
不確定な要素が
あります
何度も折って コツを
つかんで下さい



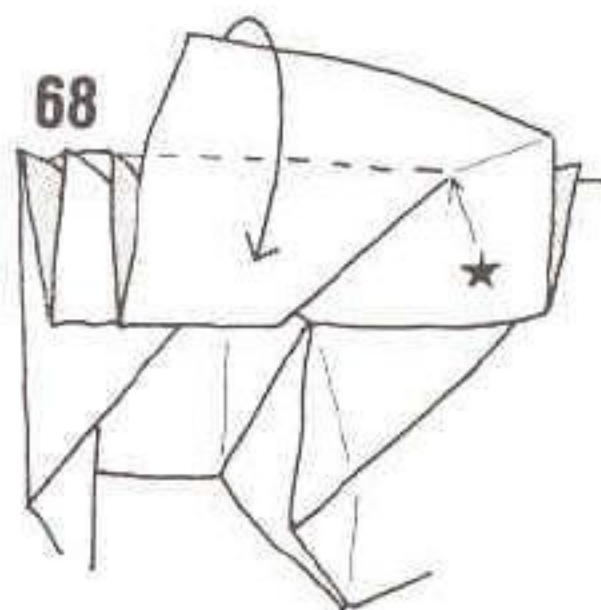
しっかりと
折り筋をつける
☆は 69 参照



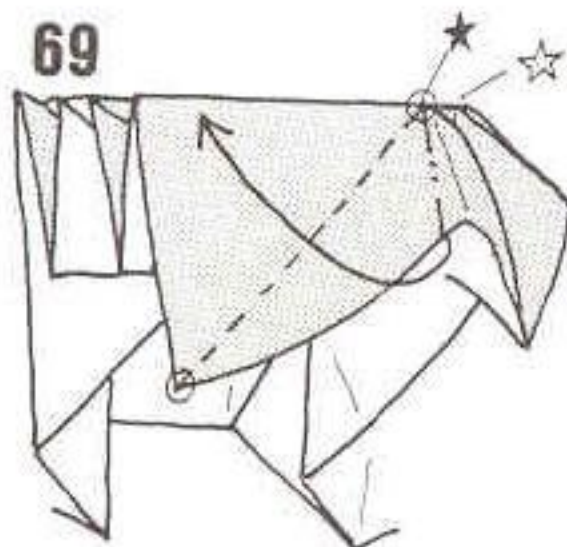
図の目安で
折り下げる



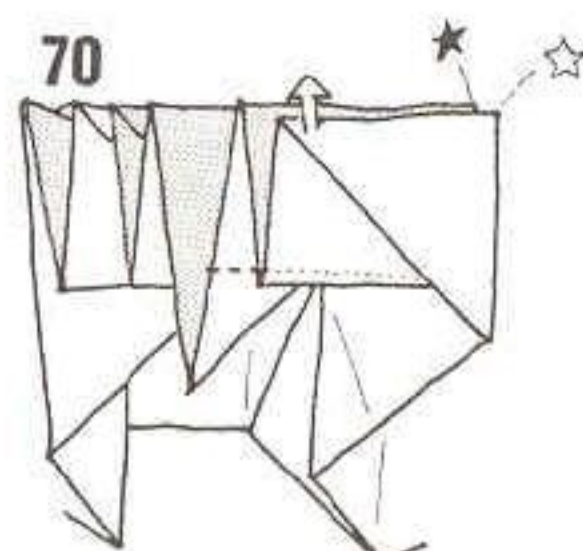
★の位置に注意



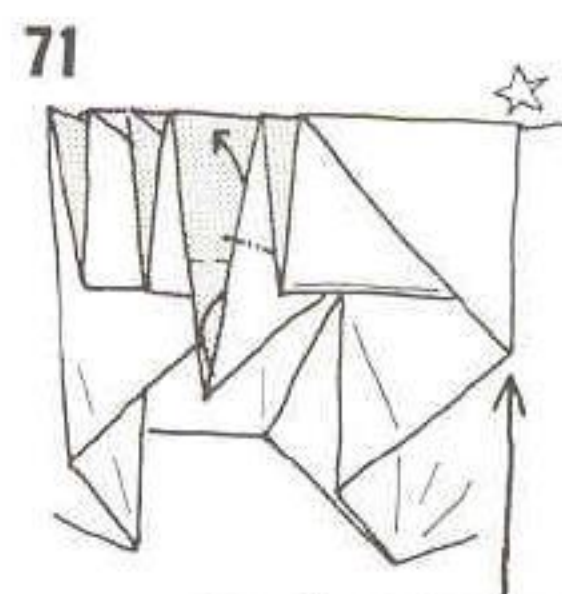
中央の線にあわせて折る
★は☆より左に
なっていること



○印を通る線で
折り畳んでいく

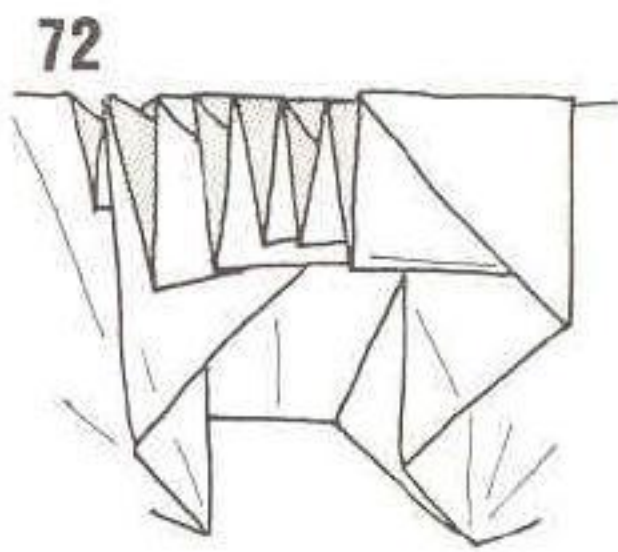


☆を基点にして
上の辺が合うように
折りずらす

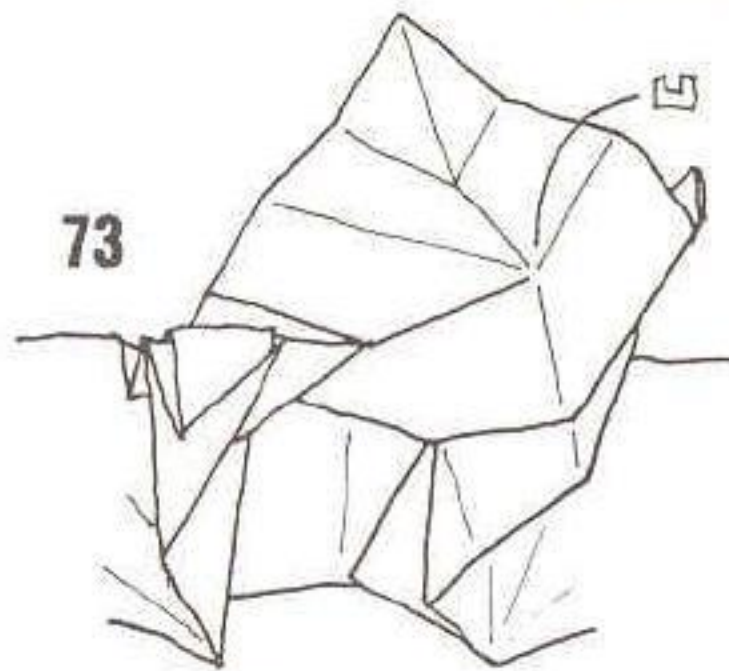


この線が 65 で折っ
た線になっている

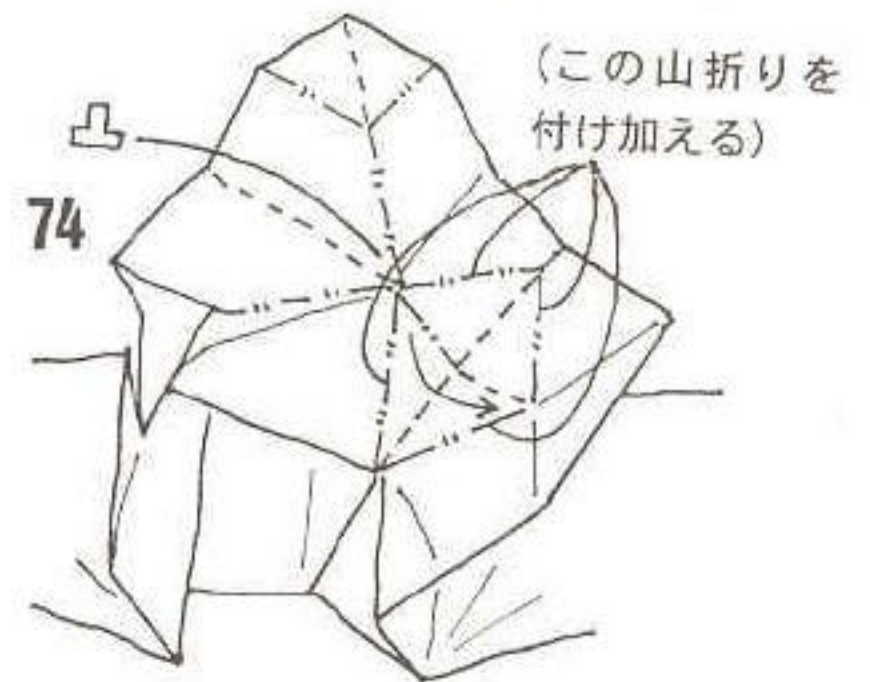
中割り折りで
シマをつくる



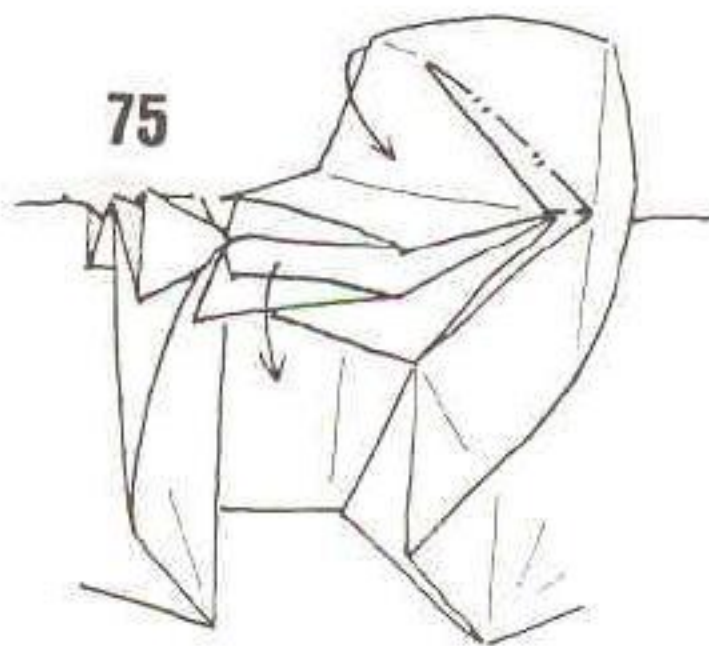
上側も 65~71 と同様に折る



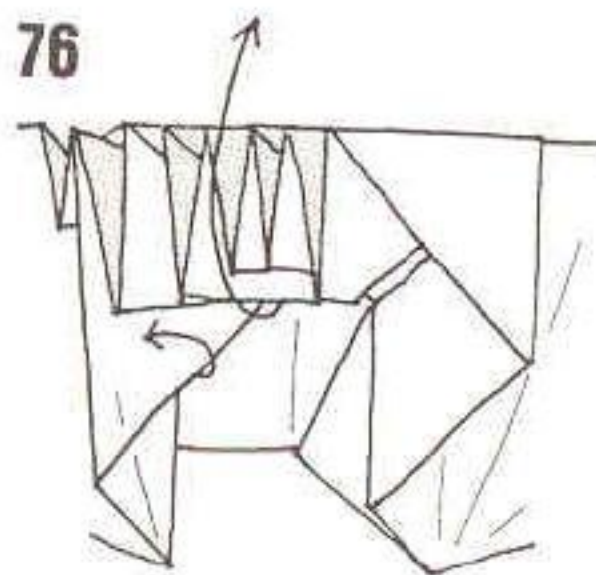
(72 のシマ部分を
広げて下から見る)
図の凹部を裏から
押して凸にする



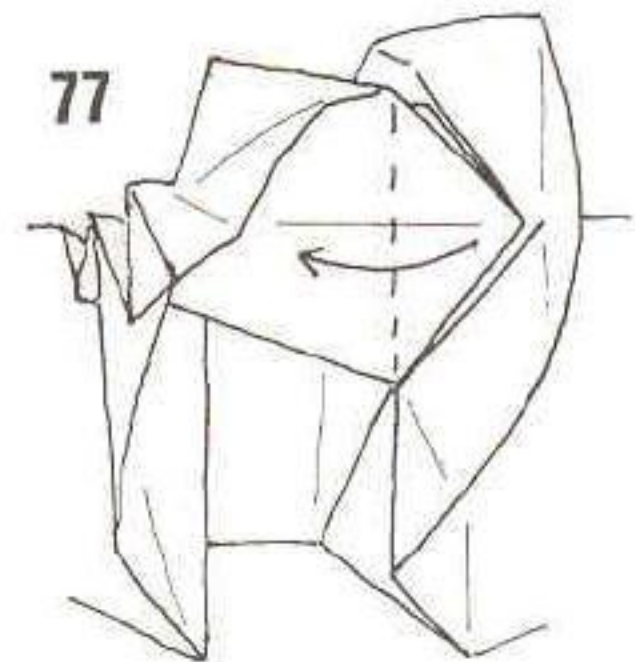
図のように折り線をつけてたたむ
(この山折りを付け加える)



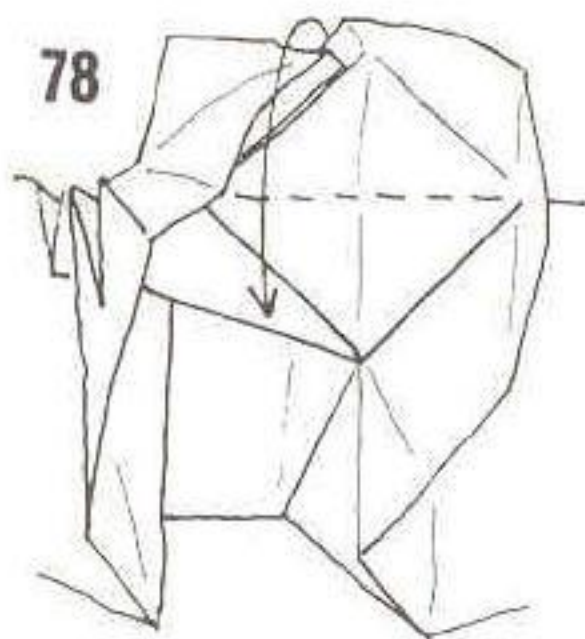
途中図



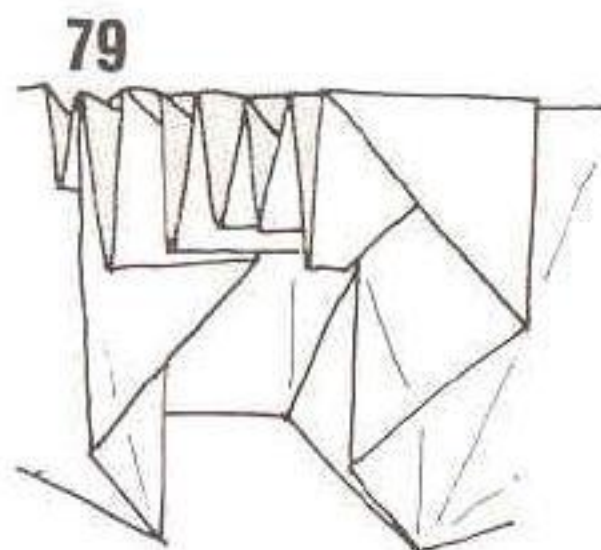
3 枚ヒダを
上にもちあげる



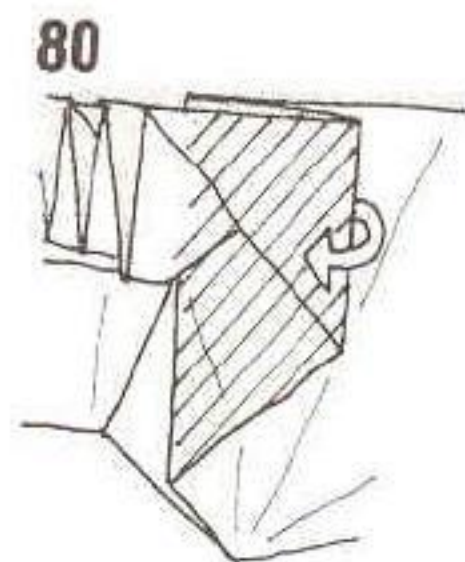
三角部分を
折り返す



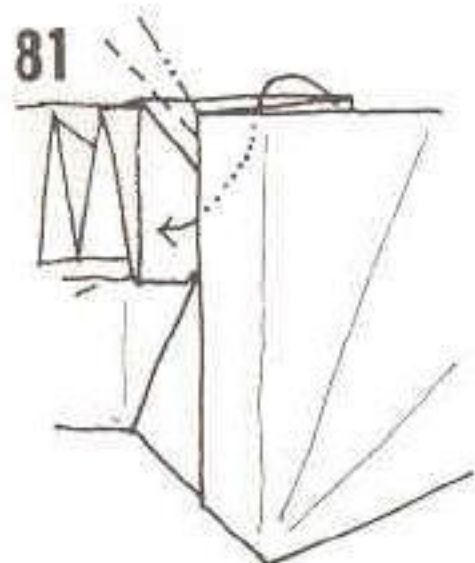
たたむ



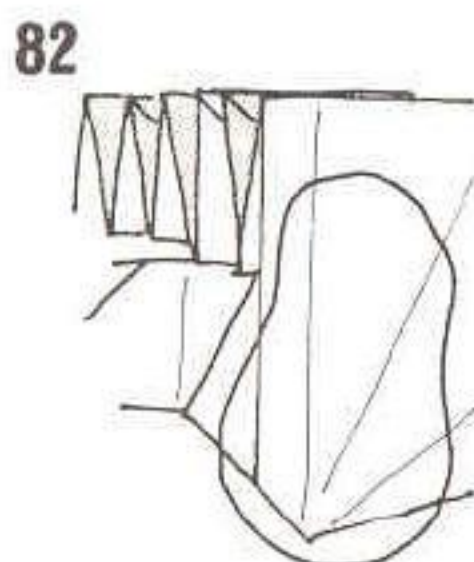
上側も 73~79 と同様に折る



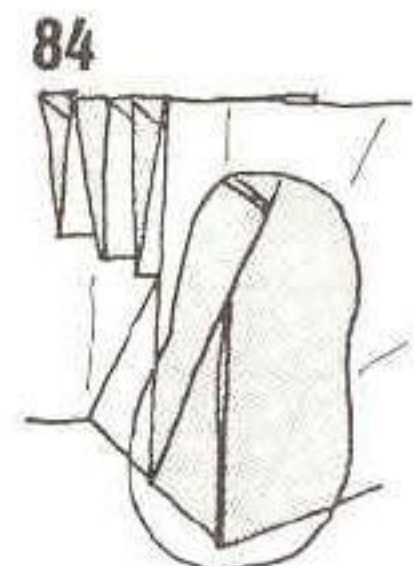
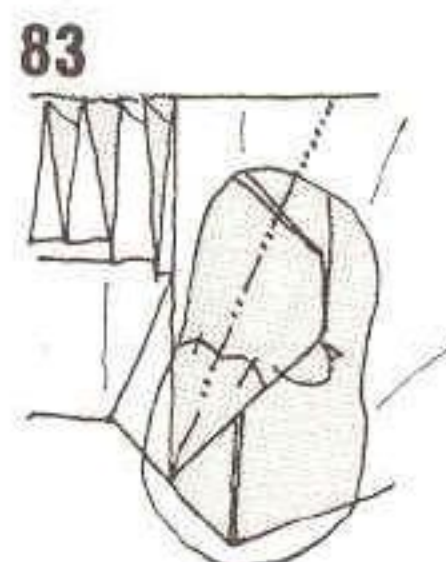
斜線部を沈める



中割り折りで
シマをつくる

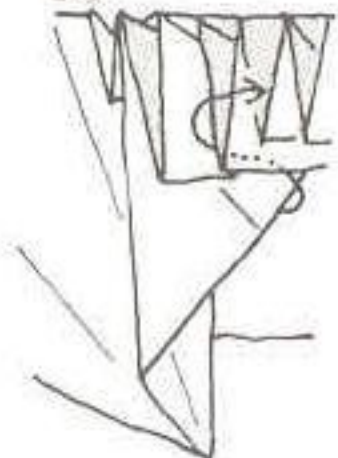


(透視)



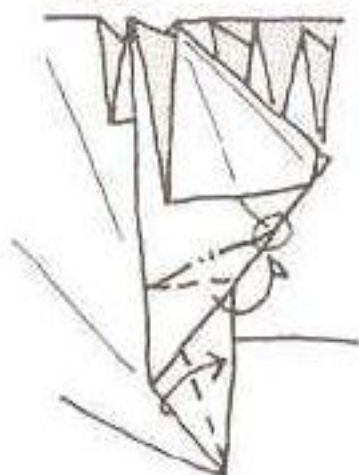
上側も 80~83 と同様に折る

85



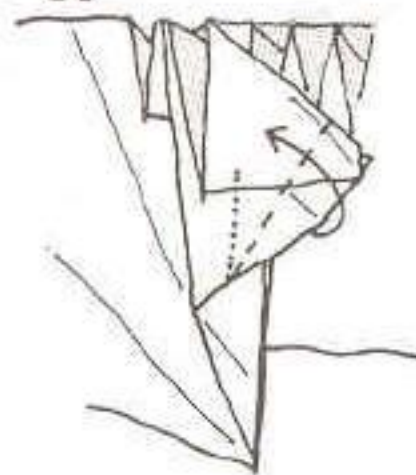
ヒダを上に出す

86



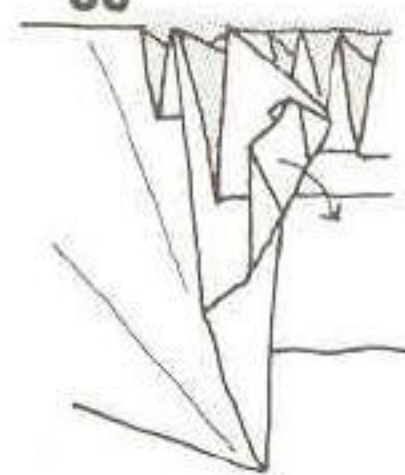
すでにある折り筋を目安に引き寄せ折り

87



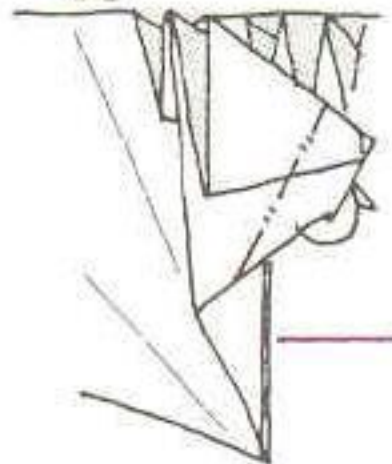
引っかかるところで折り上げる

88



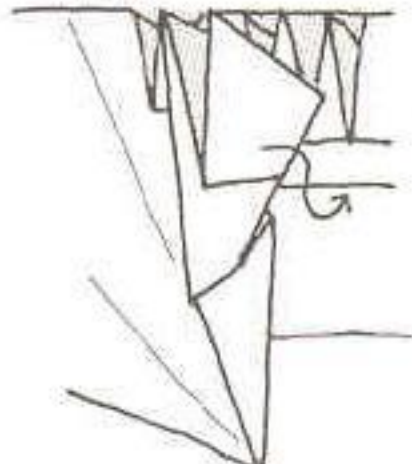
折り筋をつけて戻す

89



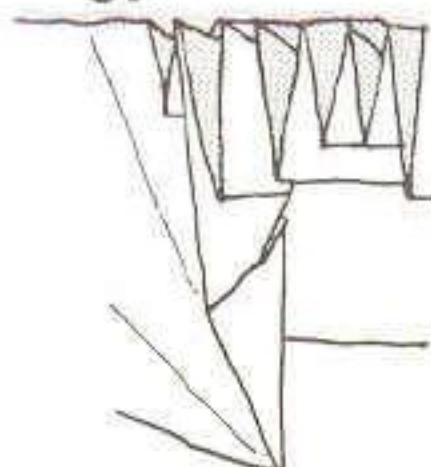
つけた折り筋で
中割り折り

90



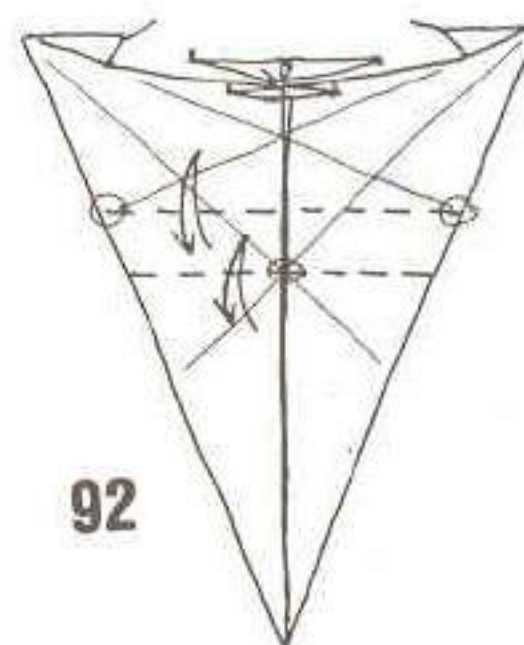
ヒダの下にしまう

91



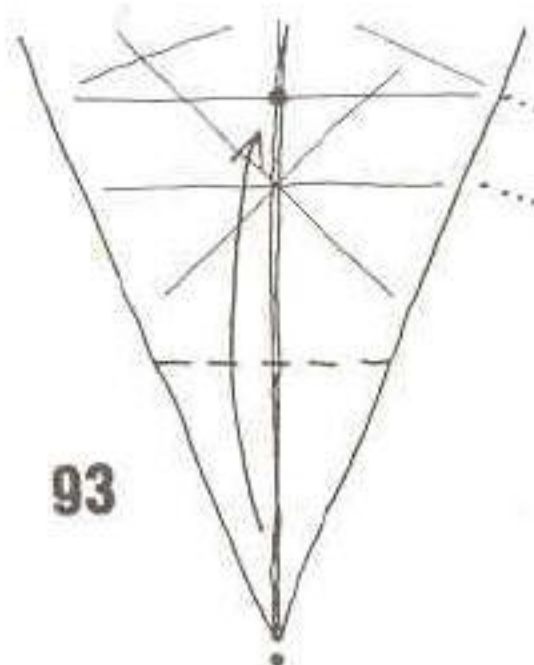
上側も 84~91 と
同様に折る

92

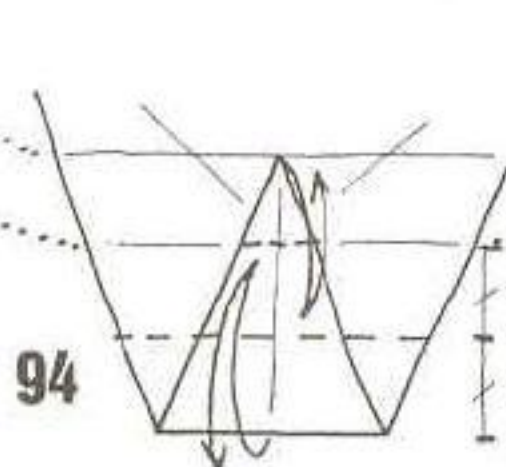


(尻尾)
折り筋をつける

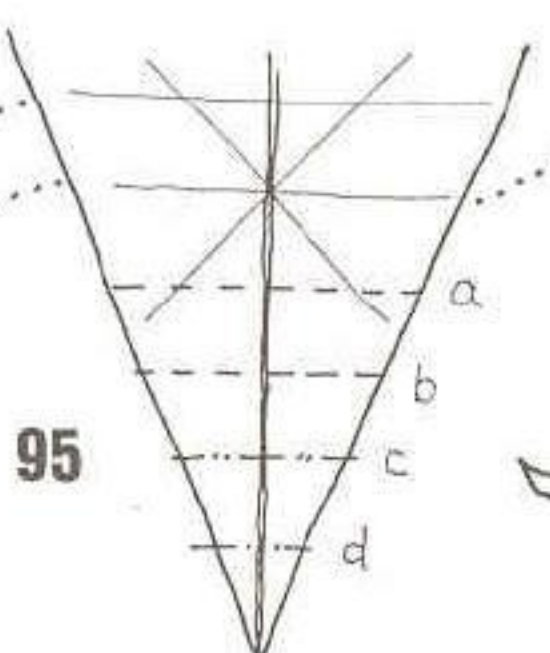
93



94

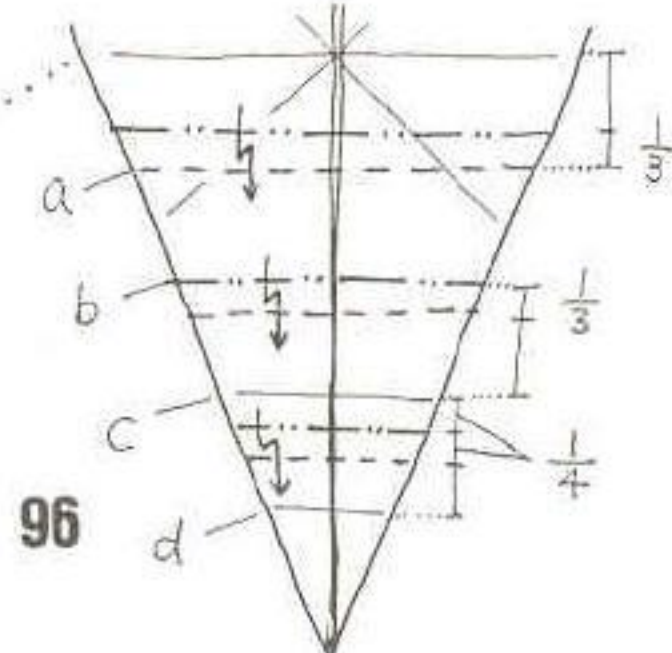


95



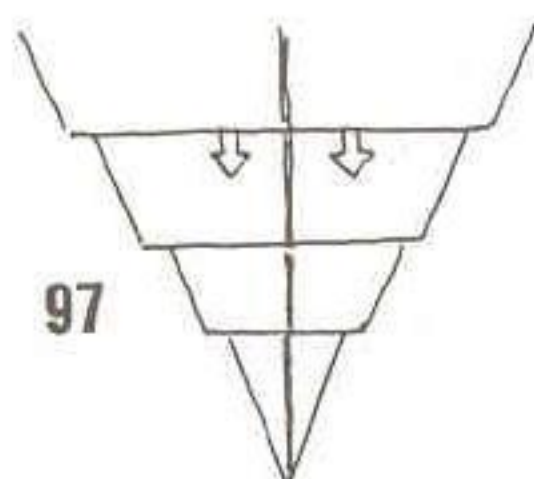
図のような折り筋が
ついている

96



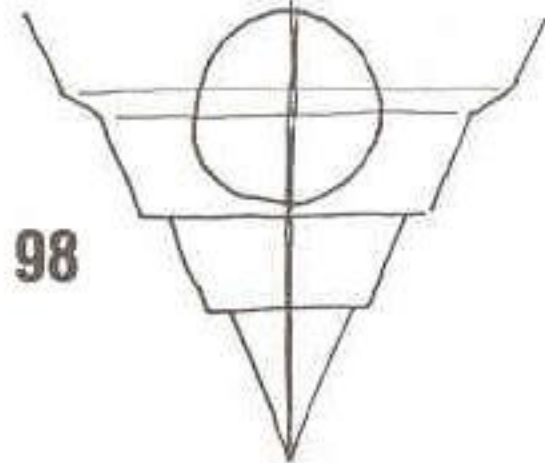
図をよくみて段折り

97

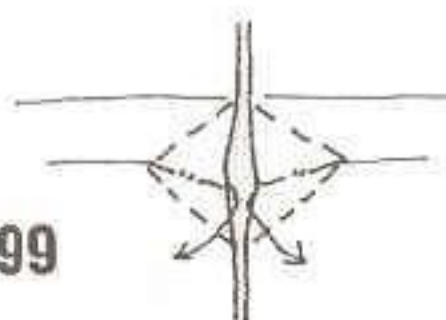


少しひらく

98

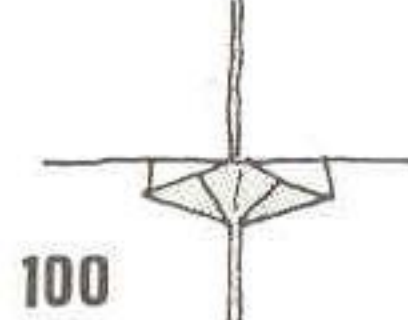


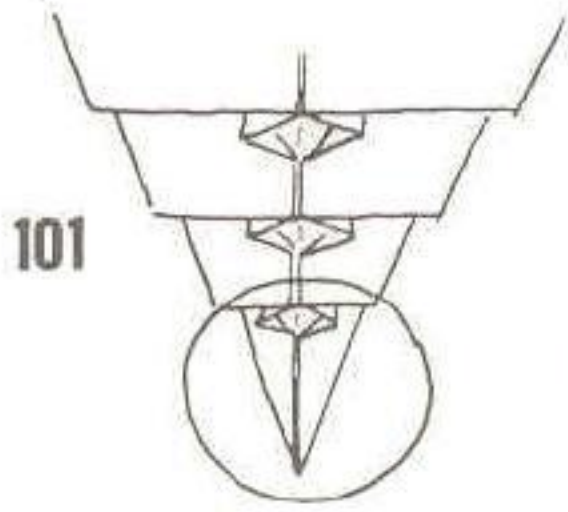
99



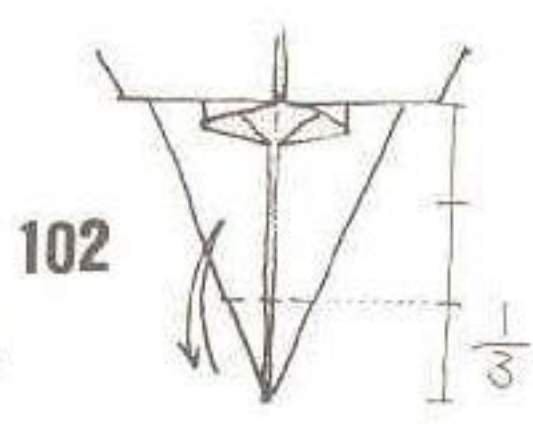
尻尾のシマをつくる

100



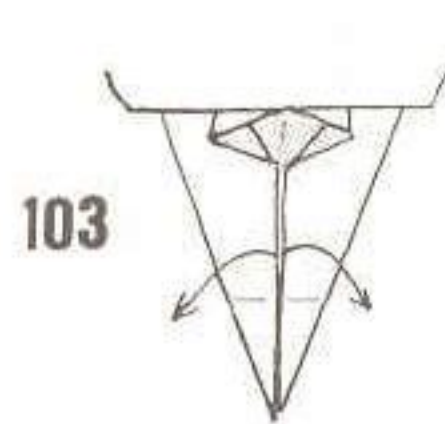


101

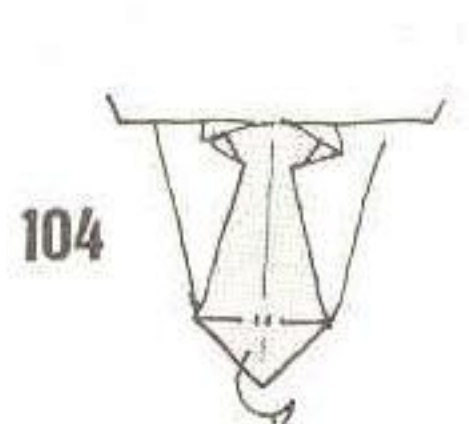


102

折り筋をつける

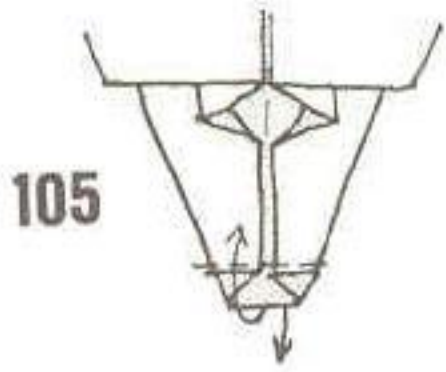


103

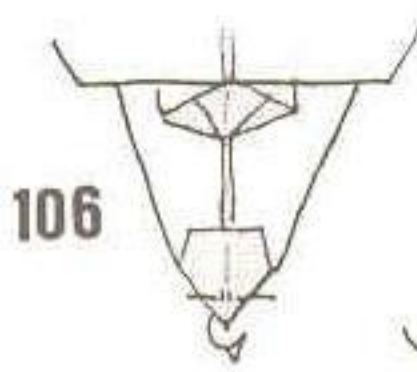


104

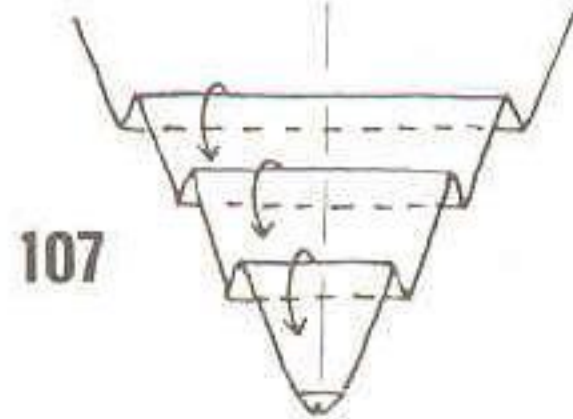
つけた折り筋で
折ったあと、とじる



105

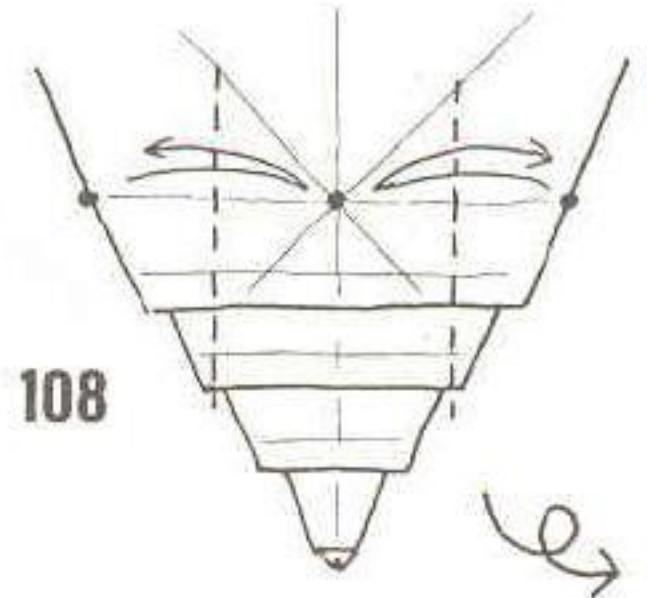


106



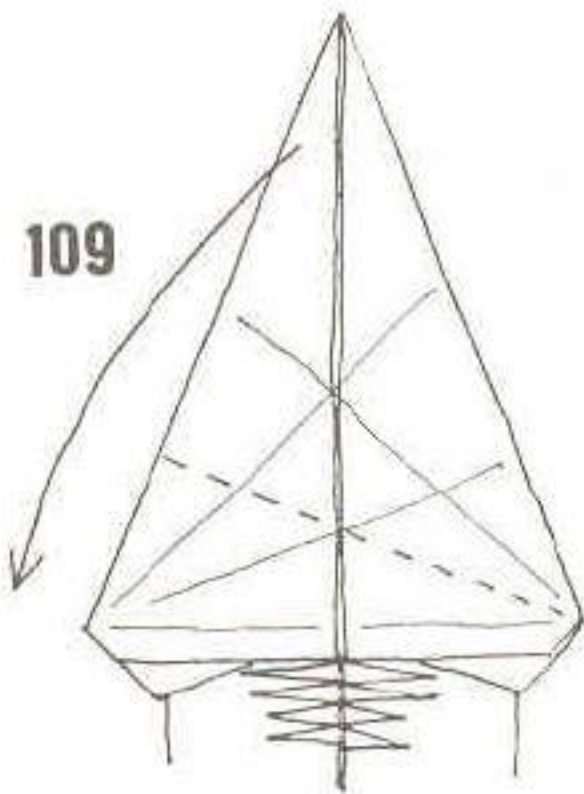
107

後ろのシマをこわさない
ように折り下げる



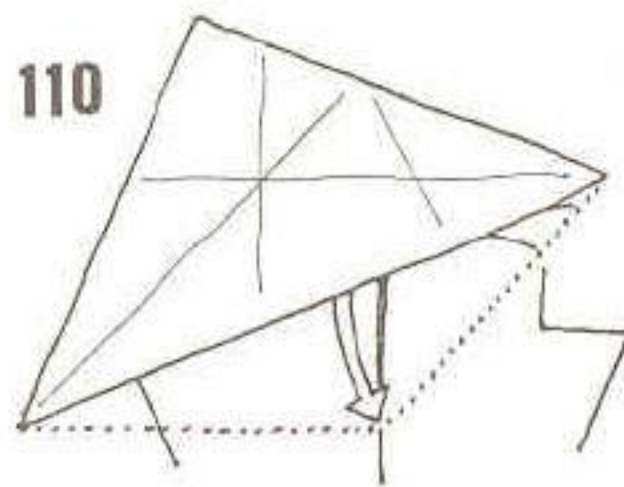
108

折り筋をつける



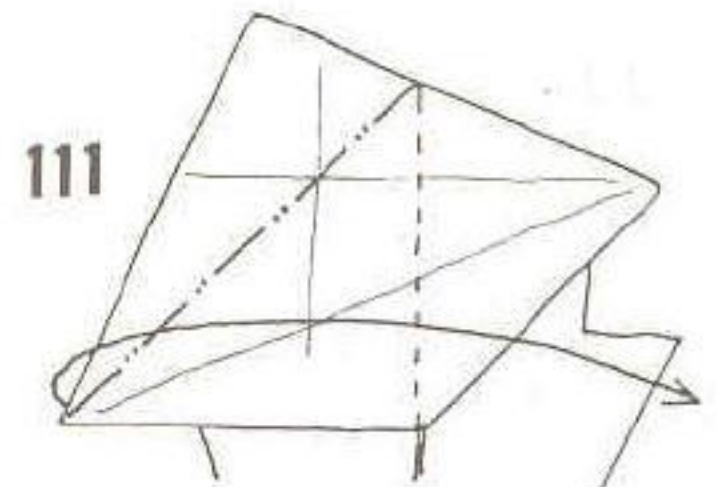
109

(頭部)

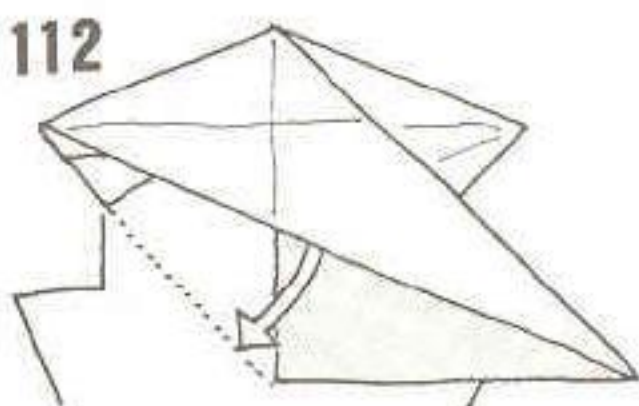


110

内側から
紙を引き出す

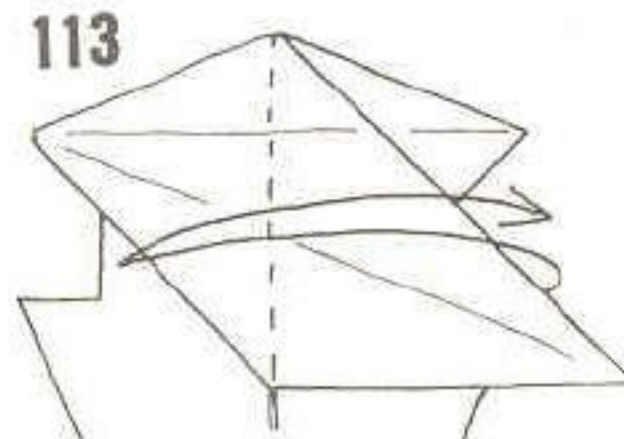


111

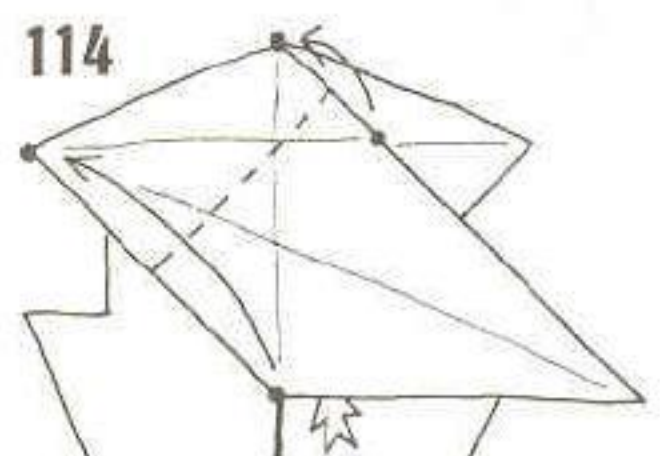


112

内側から
紙を引き出す

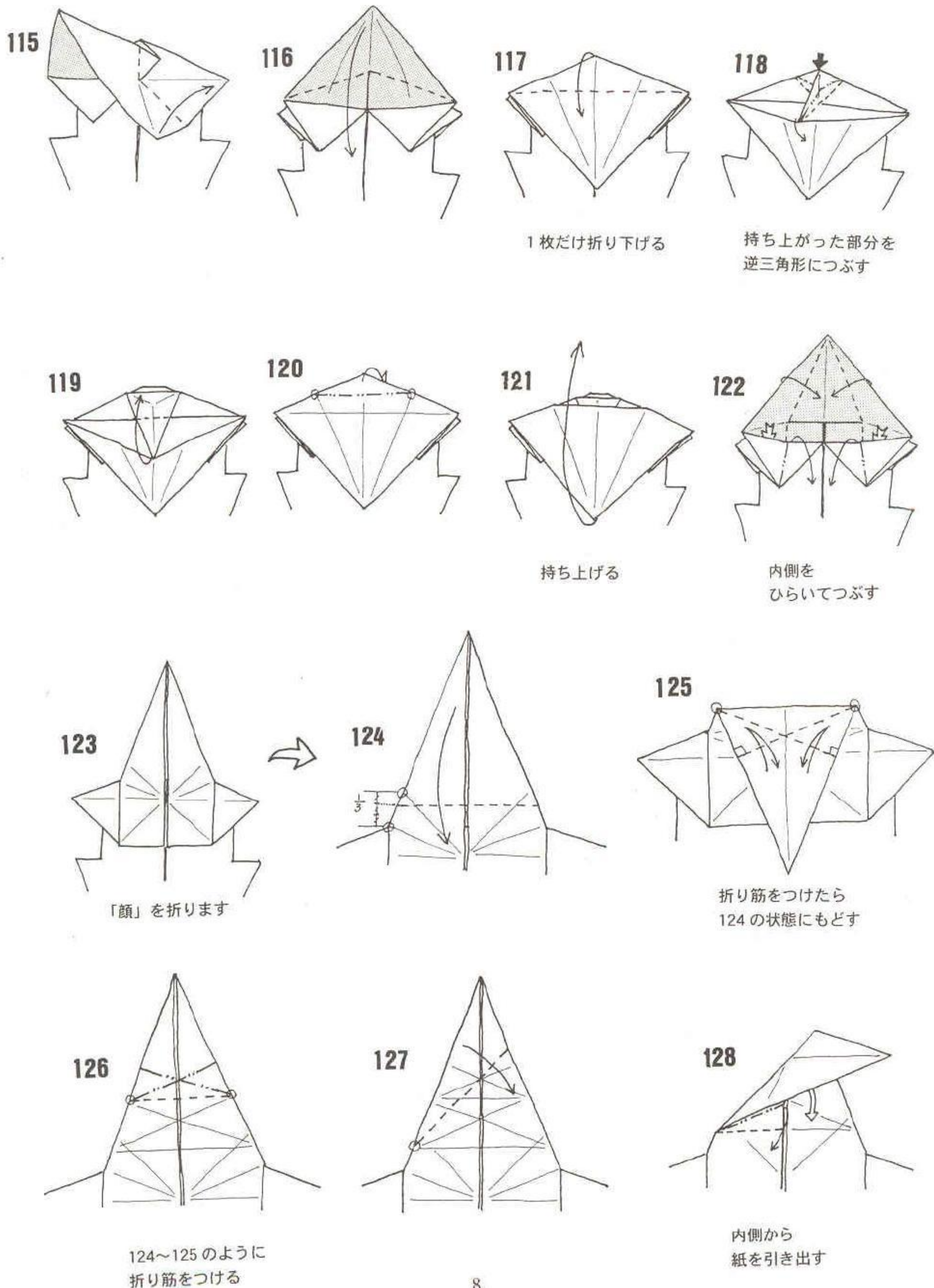


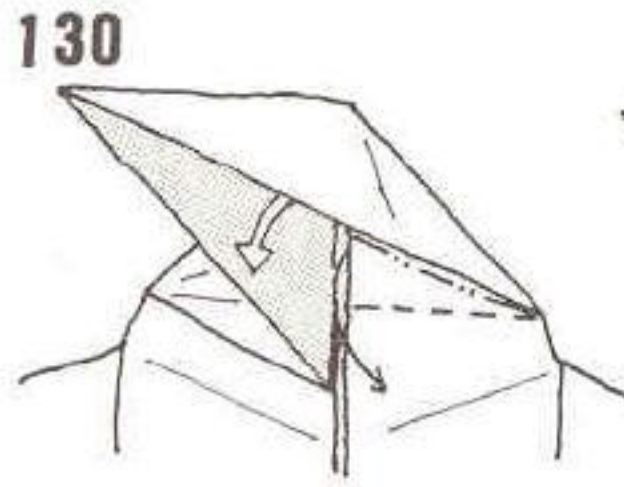
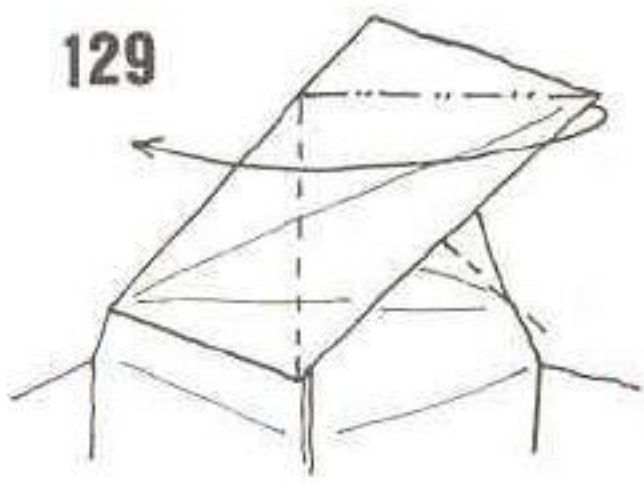
113



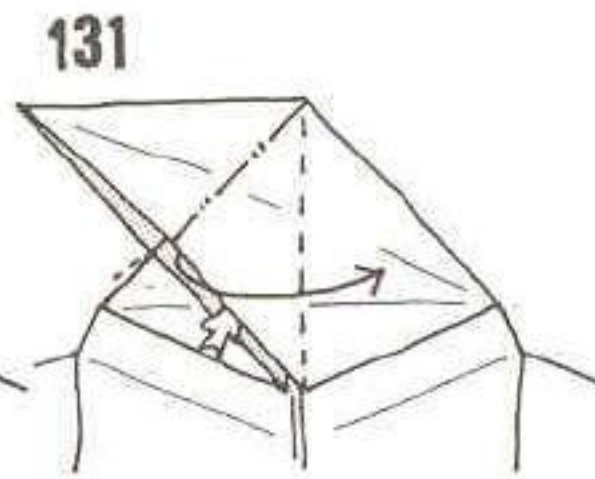
114

117 まで連続した折り

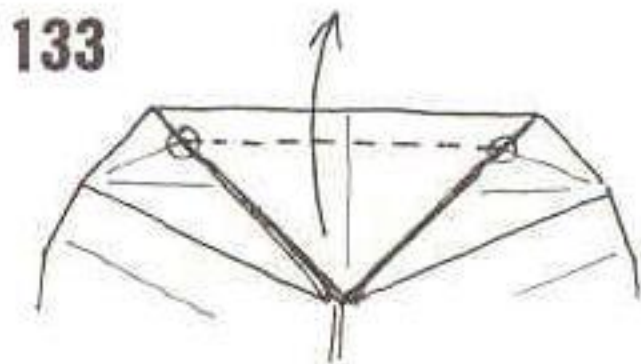
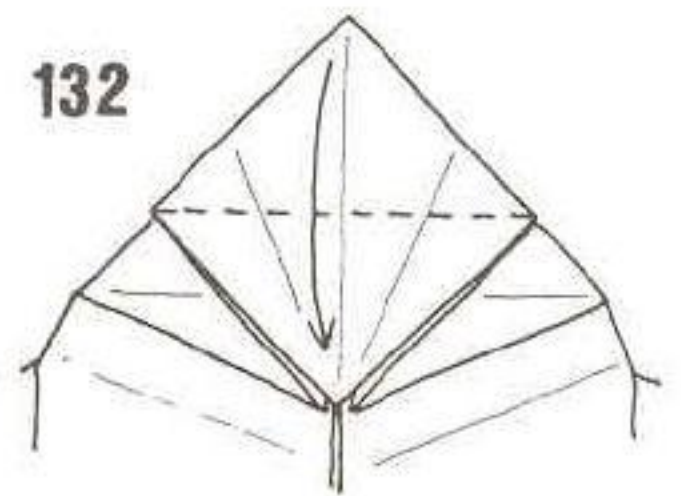




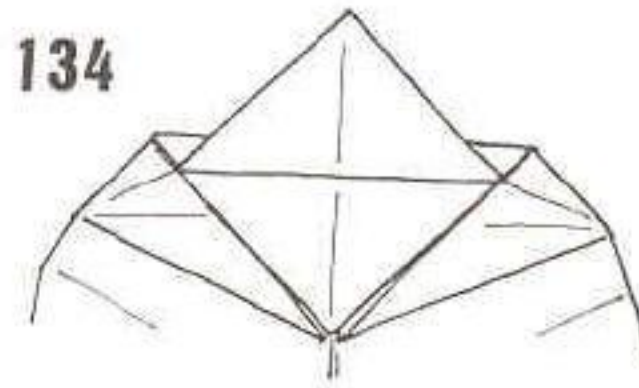
内側から
紙を引き出す



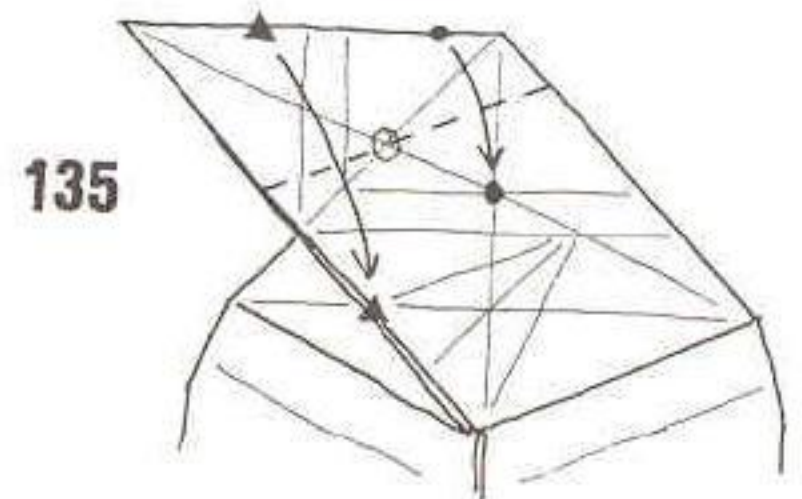
内側を
ひらいてつぶす



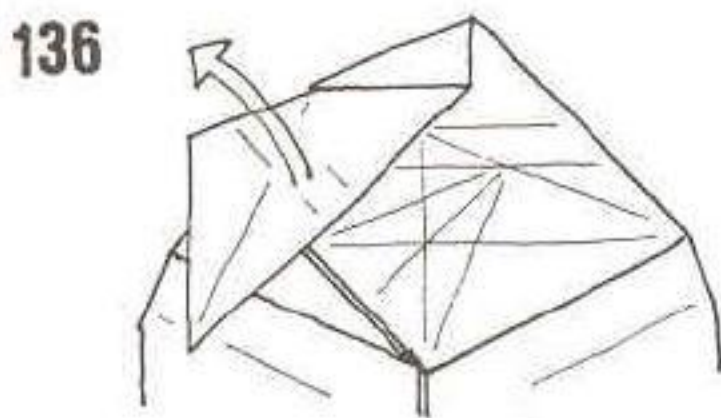
ついている折り筋を
目安に折り上げる



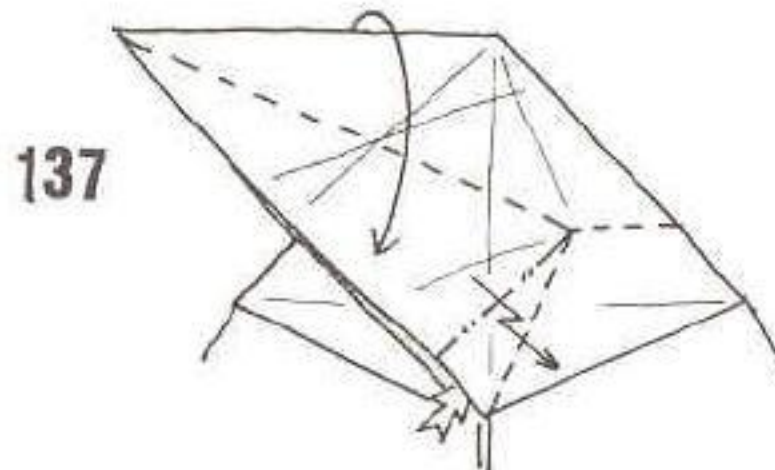
折り筋をつけたら
131の状態にもどす



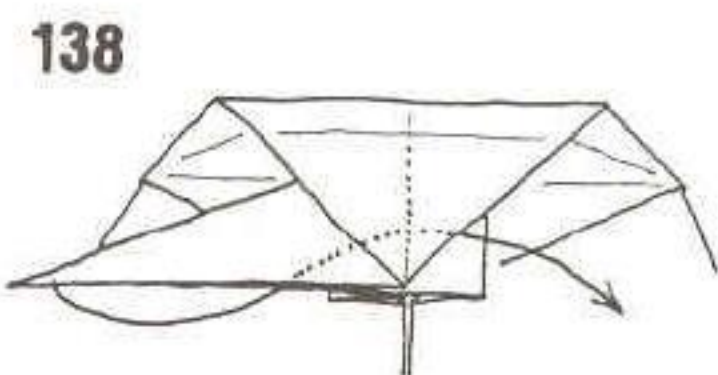
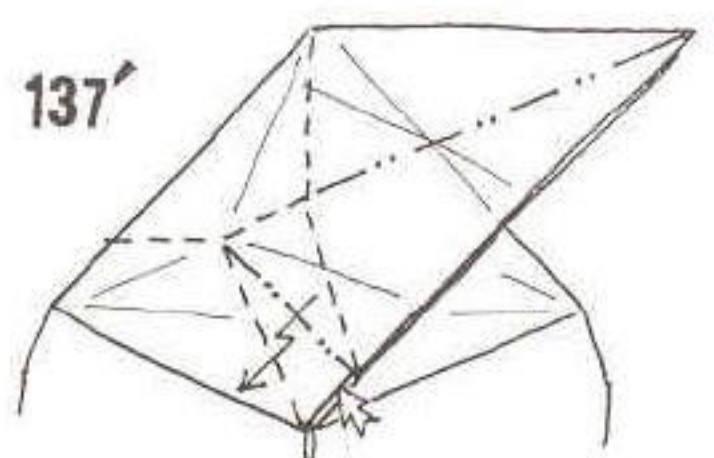
図をよく見て折る



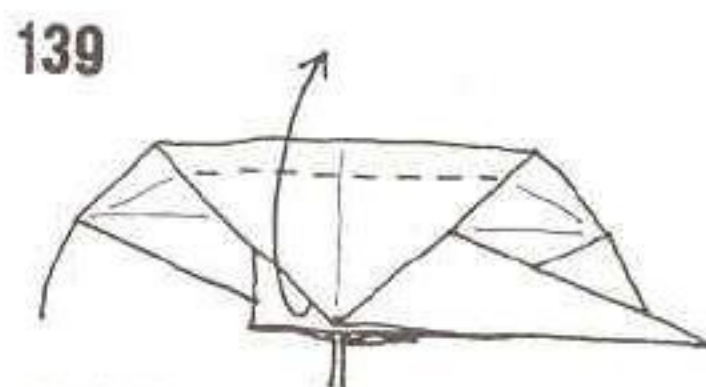
折り筋をつけてもどす



次の図を見て右側、
左側を同時に折る



大きく中割り折り



折り目で
持ち上げる

...という所で次回にづく
(次の図は立体図だというのに
なんて中途半端な...)

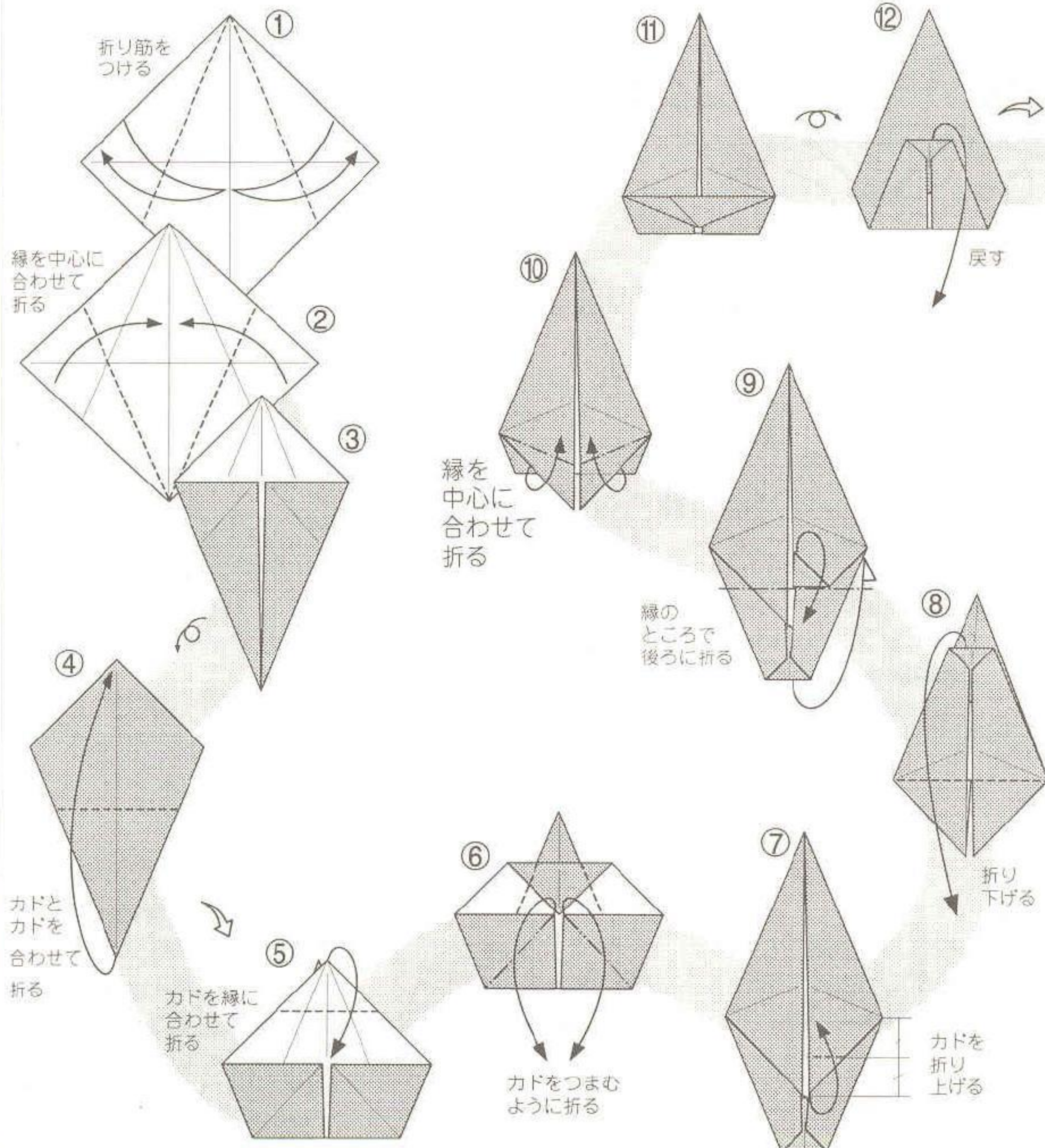
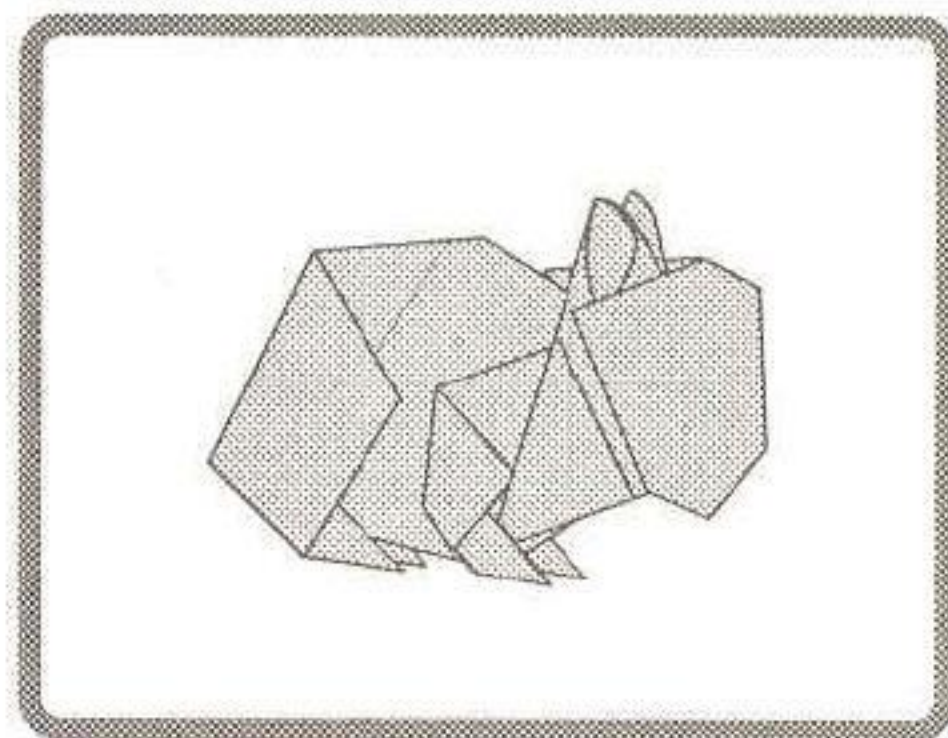
73~75の折りは扇の部分の
紙の厚みを取るためです。
ホイル紙などで折る時はとば
してもいいでしょう

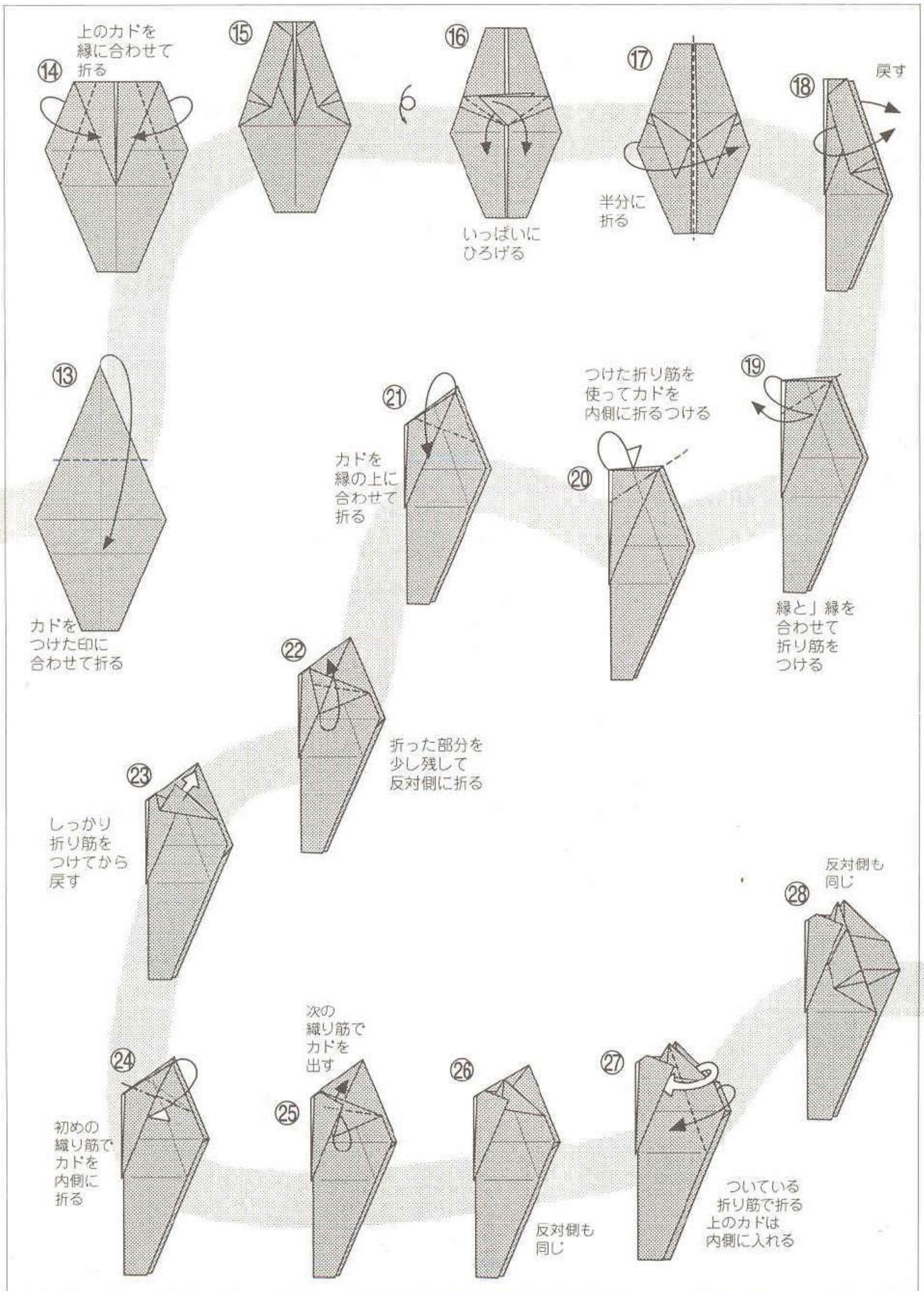
次回はいよいよ完結です

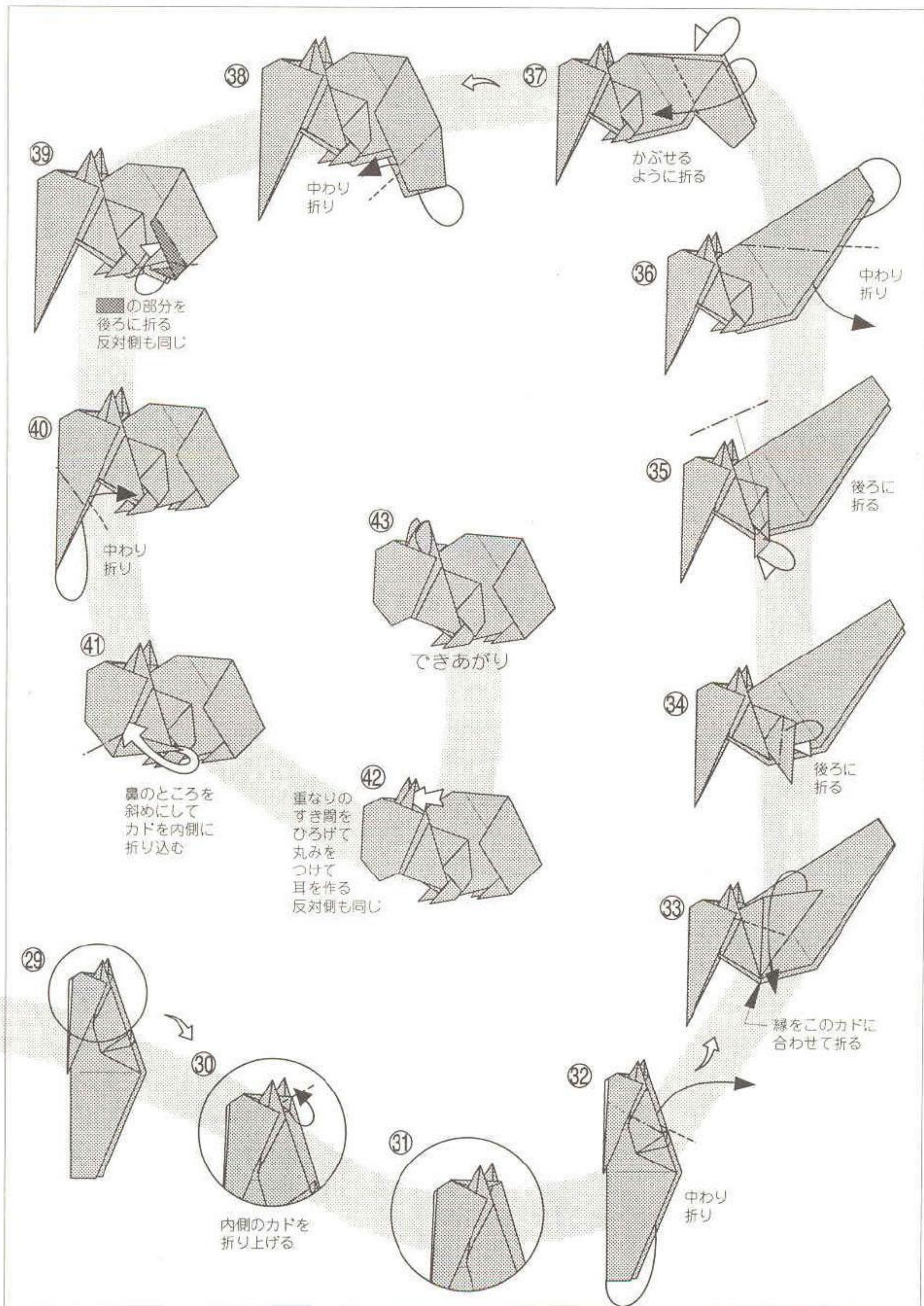
なきうさぎ

山口 真

Model&Diagrams
Makoto Yamaguchi







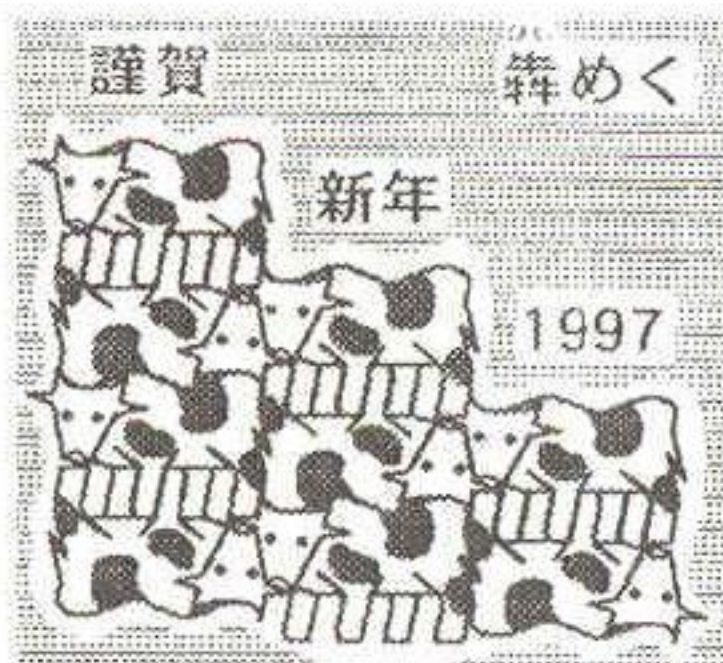
特別寄稿

エッシャー繰り返し模様と折紙

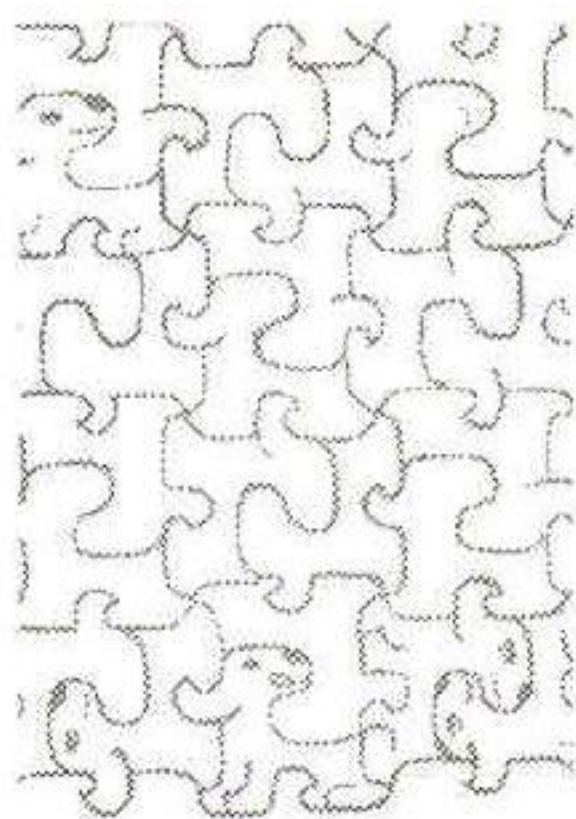
伏見康治



前川淳さんが年賀状に下さったが、それには牛を単位にしたエッシャー流の繰り返し模様が描かれていた。私も何年か前の戌年に、ワンちゃんを単位にした繰り返し模様の年賀状



前川さんの年賀状

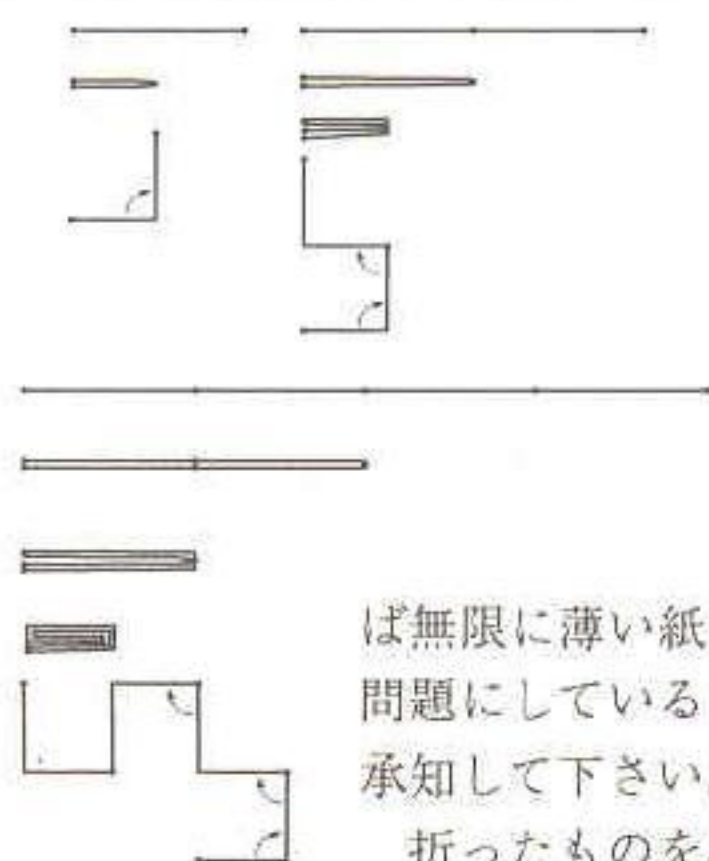


筆者の年賀状

を出した覚えがある。

エッシャー流の繰り返し模様と折紙とは、何の関係も無いように見えるが、実は深層的な関係があるのである。それにはまず「ドラゴン曲線」の話から始めないといけない。長い紙テープを真ん中で二つに折る；二つに折ったものをまた真ん中で二つに折る；これによっつにおれた紙テープができるが、それをまた真ん

中で二つに折る、これを無限に繰り返す。もっとも紙は無限に重ねては折れないだろうが、しかし相当何枚重ねても折れるものである。今朝の新聞のページ数は36頁だったから、18枚の紙を重ねて折っていることになる。しかしここで言っていることは、実際の紙を折るのではなく、いわ



ば無限に薄い紙を問題にしていると承知して下さい。折ったものを次にほぐして折り目の角度が丁度90°になるようにして下さい。(上図)

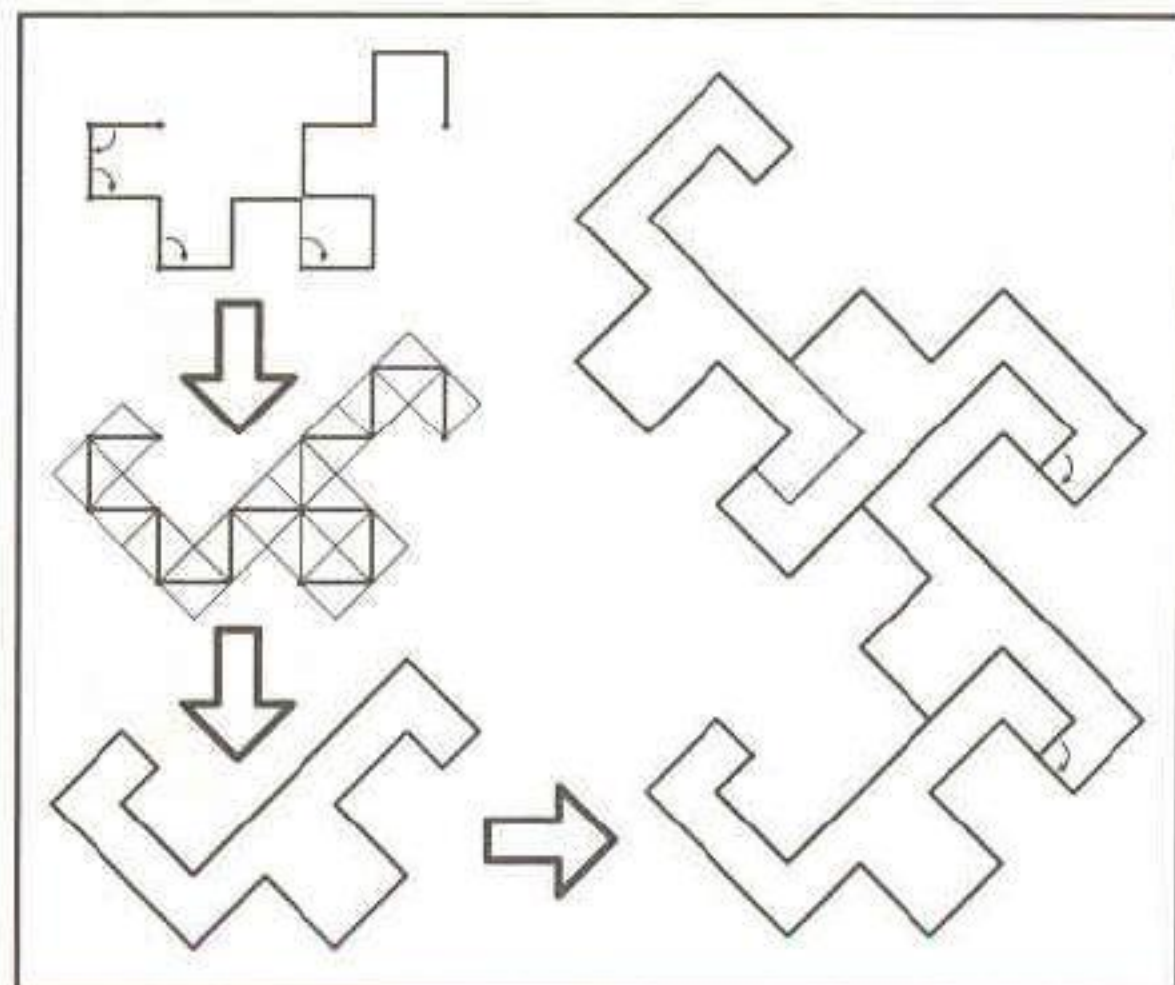
こうしてできるジグザグな曲線(或いは折れ線)をドラゴン曲線とよぶのである。実際何十回もこの手法を繰り返してできる折れ線は何か中国の龍のような雰囲気を持っているのである。これを描くには実際に紙を折る必要はない。方眼紙を持ってきて、ジグザグの曲線を、上のルールに従って描いていけばよいのである。ただ紙帯を折ってひろげたものであることが、この曲線が決して自分自身と交叉しないものであることを、あら

かじめ保障してくれているところに意味がある。

次にこの折れ線の単位直線分を「太らせる」、つまり、その線分を対角線となるような正方形で置き換える、それは正方形をいくつかつないだ、面積を持った図形になる。今までの作図法から言って、この図形で、全平面を隙間なく埋め尽くすことができる；つまりこの図形はエッシャーの繰り返し図形の単位として役立つのである。この図形は、もっと具象的な図形に少しずつ変えることができる。例えば角張ったカドを丸めていくことができる。

こうしてできるエッシャー図形は実は極めて多種多様である、と言うのは上の例示ではいつも直角に右回りに回転操作を施すとしてきたが、別にそんな制限をつける必要はない。右回りにしたり、左回りにしたり、勝手に変えられるから、この方法で実に多様なエッシャー図形を生み出すことができるのである。

皆さんも是非やってみて下さい。



Rabbit Ear つまみおり

いよいよ第3回折紙探偵団コンベンションが迫ってきた。暑さに負けず、準備作業もラストスパート。

コマツビデオの 折ったもんがち!

新素材探究のはてに



第3回折紙探偵団コンベンション直前情報

今年の折紙探偵団コンベンション(8/23(土)、24(日))もいよいよ2週間後に迫った。「秘傳千羽鶴折形」出版200年にちなんだ今大会のロゴは、同書収録作品をあしらった木村良寿氏のデザインによるもの。

●リック・ビーチさんの教室

吉野一生基金の第一回招待者リック・ビーチさんには、欧米の作家による2作品を紹介していただくことになった。ひとつは、デビッド・ブリル氏作の「ます」。1994年に折り紙と科学の国際会議のために来日したブリル氏が京都で見つけた升にインスピレーションを得て創作した作品とのこと。もう一つは、パトリシア・クロフォード氏作の「バレンタイン」(矢の射られたハート)。クロフォード氏をご存じの方は少ないかも知れない。1960-1970年代にアイデア溢れる多くの作品を創作し、活躍したアメリカの女性折紙作家。複雑な作品も多く、その後のアメリカの難解折紙の先駆けともいえる日本にとっては幻の作家である。

●「秘傳千羽鶴折形」からは厳選9作品

岡村昌夫氏の特別講演に加え、特設「千羽鶴教室」では、テクニック・難度を考慮し、厳選された9作品の講

演を行う予定。

◎予定作品

「拾餌・花見車」、「稲妻」、「村雲」、「巢籠・迦陵頻」、「蟻の塔」、「昔男」、「九万里」。



コンベンション折り図集 Vol.3 の表紙

●講師は総勢30名以上

今回のコンベンションで講師を務めていただくのは総勢30名を超えた。

◎講師リスト

飯沢秀幸、榎本京子、岡村昌夫、加藤美子、神谷哲史、川崎敏和、川畑文昭、木下一郎、木下 剛、木村哲夫、木村良寿、橘高美保子、小笹径一、小松英夫、高井弘明、田中稔憲、千葉 京、土戸英二、西川誠司、初音みね子、羽鳥公士郎、濱田隆幸、布施知子、北條高史、本位田那穂美、前川 淳、宮島登、山田勝久、山梨雅弘、リック・ビーチ、和久敦也。(50音順、敬称略)

●充実の折り図集

コンベンション折り図集 vol.3 は140ページを超える充実した内容、値段は据え置き! 請うご期待。

●参加者募集

申込み者数は、ほぼ定員に達していますが、今すぐご連絡いただければ受け付けられるかも知れません。ご希望の方はお急ぎ下さい。

折紙探偵団事務局 03-5684-6080

去る6月の14,15日と21,22日の2週に渡って、東京都文京区・白山神社で「あじさい祭り」が行われた。その開催中、色々な出店が立ち並ぶ一角では、おりがみはうすと折紙探偵団のメンバーが催す「あじさい折り紙教室」が開かれ、多くの人々が足を運んでいた。

今回で2回目になるこの「あじさい折り紙教室」。好評だった1回目をうけての開催である。その中身は、普段折り紙にあまり触れることのない人達に、あじさいの折り紙を使ったしおりを作ってもらい折り紙の楽しさを知ってもらおう、というものである。

今年の梅雨時とは思えない晴天続きのせいで、ちょっと疲れ気味のあじさいに囲まれた「教室」のあるテントの中は、4日とも常に活況を呈していた。さすがに講習が無料で材料付

き、実際に折る時間も比較的短いとあっては当然のことかもしれない。

それでも、小さな指で器用に折る小学生、二人で出来具合を競い合うカップル、懐かしい中にも新鮮さを感じたご婦人方など、老若男女それぞれが自分で折りあげた「あじさい」を、しおりとして持ち帰るときの顔はとて満足そうであった。

講師として参加した団員もお祭り気分心地よく包まれ、リラックスした雰囲気の中を過ごした。ある団員などは、右手にはかき氷、左手には綿飴、口にはコロケと大変なことになっていた。

また、今年も白山神社で21日「おりがみ供養」が、多くの人で賑わう午後1時より行われた。堂内で修祓、引き続き庭でお焚き上げ、と多くの人々が折り紙の霊を静かに送った。



例年どおり「供養」は日本折紙協会が執り行ったのだが、直前まで協会は、今年の開催に関して歯切れの悪い態度を見せていた。途中で投げ出すことなく、続けて欲しいものだ。

とにかく探偵団としては珍しい「教室」。今後も同じ時期に白山神社で行っていく予定なので、興味のある方はぜひ次回足を運んでみられるとよいだろう。

(講師として参加した団員：初音、加藤、本位田、榎本、千葉、川上、田村、近江、田尻)

あじさいまつり and 折り紙教室

6月のイベント報告

6月22日、白山神社のあじさい祭りで榎本氏・初音氏・近江氏らがあじさい折り紙の講習をしていた丁度その頃、白山神社から徒歩5分に位置する東洋大学において日本人形玩具学会総大会が開催されていた。この会に所属し、学会の運営委員も務めている岡村氏が、「遊ぶことのできる折り紙という課題で、折り紙の団体も参加して欲しい」との要請を受け、探偵団はワークショップに参加することになった。探偵団からは、岡村・西川両氏が出席した。

探偵団のスペースでは、展示物と



日本人形玩具学会 in 東洋大

して吉野骨格をはじめ伝承・創作織りまぜて100余点の作品を並べ、その隣りに用意した「遊ぶ折り紙実演コーナー」でロケットや、ピョンピョン蛙の講習を行うこととなった。

参加者は女性の方が圧倒的に多く、なかでも女子大生の見学参加者が高い比率を占めていた。このことを前もって予測していたと思われる岡村氏は、メタルカラー折り紙の可愛い指輪を数十個用意し、展示作品を見に来た女子大生に配って折り紙の面白さと自身の人柄の良さをアピールした。また複雑に見える展示作品が本当に不切正方一枚折りであることを証明するため、展示用とは別に折ってきた複雑作品を、見物人が集まった頃を見計らって広げてみせるなどのパフォーマンスを行ない、多くの人を魅了した。

一方、西川氏は講習担当で女子大

生にロケットや蛙を楽しく教えていたが、いつのまにか「昔女子大生だったかもしれない」人々に囲まれ、悪戦苦闘する事となった。「難しい」「分からない」を連発するのをなだめながら懇切丁寧に指導し、やっとできあがった途端、「はじめを忘れちゃったからもう一回教えて頂戴」との言葉を聞いた西川氏は、もはや抵抗する気力もなくしていた。そこにふらっと現れた悪魔の前川夫妻、奥様が他の店を見学している間、「踊る折り紙講師」(本誌39号参照)の血が騒いだ前川氏は、西川氏を救出すべく彼女らの折り紙講師を務めはじめたのであった。

そのようにしてつつがなく学会は終わり、折紙探偵団は日本人形玩具学会の折り紙部会として、来る8月に東洋大学でコンベンションを開くこととなった(らしい)。

おりすじ

「悪魔の囁き」

福島邦幸

今から17年前、サイエンスという雑誌の付録「おりがみの科学」に「悪魔」が載ったのは有名である。表紙の裏には赤い悪魔が、裏表紙裏には展開図が載っていた。パズルが好きだとはいえ、鶴ぐらいしか折れなかった私にとって、完成という二文字はなかった。後に前川氏から「あの図は、折り線の表記がまちがっていた。」と、うかがった。しかし、たとえ正しかったとしても、できなかったであろう。

この時は、挫折感でいっぱいであつたが、いつかできるのではないかと思ひ付録をずっと持っていた。やがて時が過ぎ、この記憶は脳の片隅に追いやられ、忘れ去られようとしていた。と、その「悪魔」が思わぬ所で復活したのである。何と、パリで！

87年（悪魔との出会いから7年後）アブダビ日本人学校に派遣された私は、50度以上の猛暑を避けるためヨーロッパに逃げた（実は、夏休み）。旅行先で日本の本を読みたくなった私は、パリにある東京書店と

いう本屋へ行った。店内を見渡しているうちに、何と赤い色の悪魔がこちらを向いて手招きをしているではないか。思わず手に取り、レジにかけ込んだ。日本で買うよりずっと割高なこの本を買わせたのも、この悪魔のなせるわざなのだろうか。

その日から、この本の虜となり折り続けた。耳の出ない悪魔は、旅行中にできた。しかし、耳の出し方には、その後1ヶ月も要してしまった。それでも完成した喜びか、うれしさのあまり悪魔を量産してしまった。作品として仕上げるために、ピンに閉じこめたりもした。また、悪魔の耳だしを見つけた自信か、この本の全ての作品を折りまくった。私が折り紙にのめりこんだ最大の理由である。

この「悪魔」は、あくまでも私が勝手に創った「悪魔」で、前川氏の意図する「悪魔」と同じものになっているかわからない。ひょっとしたら、前川氏からお叱りをうけるようなものに化けているかもしれない。しかし、これもこの私に囁きかけた「悪魔」のなせるわざかもしれない。

新刊書紹介

■世界のカブトムシ

川畑文昭・著 いしずえ刊B-5判 66ページ 定価1300円(税別)

川畑氏の作品の中では比較的やさしい作品を集めた「いしずえホビーサポートシリーズ」。今までに世界の野生動物、世界の空想動物の2冊が出ていて、それに続くシリーズ3冊目の本。コーカサスオオカブト、アクテオンゾウカブトなど魅力ある作品が紹介されている。

■たのしい折り紙全集

山口真・著 主婦と生活社・刊 B-6判 290ページ 定価1100円(税別)

いつもの山口氏のかわいい折り紙に加えてゴジラ(作・西川誠司)、ガメラ(作・笹出晋司)、ピグモン(作・木村良寿)、ウルトラマンなどが、分かりやすく丁寧な折り図で紹介されている。年齢に関係なく楽しめる一冊。

■The Mask=面 11月発売予定。

布施知子・著 おりがみはうす・刊 B-5判 200ページ(予定) カラー口絵16ページ 定価3300円

ユニット折り紙のイメージが強い作者が、まだ、ユニット折り紙に出会う前の20代に「折り紙に芸術を求めて」熱い思いで制作した、作品群を紹介した貴重な1冊。全作品カラーで紹介。

折紙探偵団定例会のお知らせ

8月30日(土) 午後2時頃～8時頃

8月の例会はコンベンションの反省会も兼ねますので、色々な意見をお待ちしています。

9月27日(土) 午後2時頃～8時頃

いずれも文京区民センター

編集後記

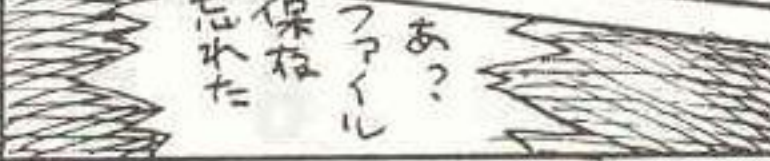
お詫び 探偵団会員名簿は8月頃発送する予定でしたが、都合により10月に発送させていただきます。



パソコン折紙におもてなしの巻



何も知らずに
どうなる...
のちであつては



発行・折紙探偵団

〒113 東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6080

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫